

# みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 979人 (平成29年6月21日現在)

アンケート回答者数 496人 (回収率50.7%)

調査実施期間 平成29年6月下旬～7月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
122	374	0

年代別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
1	8	27	57	90	160	115	38	0

同居未成年家族の有無

あり	なし	不明
125	368	3

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
5	15	35	438	3

新規モニター・継続モニターの別

新規	継続
61	435

※「同居している未成年家族の有無」は、以下「未成年家族の有無」と記載する。

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※男女別、年代別、未成年家族の有無別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

※「新規モニター」は、今回初めてアンケート対象者となった者。

## 《結果概要》

### I 食と放射性物質について (問1～問15)

食品中の放射性物質を気にしている回答者は69.2%となり、昨年度と比べて2.1ポイント低下した(問1)。気にしている理由は、「人体への影響が不安」が最も多く、昨年度と同様の傾向である(問2)。

一般食品における放射性セシウムの基準値について、「数値の根拠もある程度知っていた」とした回答者は26.8%で、「数値のみを知っていた」とした回答者は50.4%であった(問5)。

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、昨年度よりやや少ない46.4%の回答者が確認している一方、53.0%の回答者は確認していない(問7)。また、放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認方法は、回答が多い順に「新聞」、「テレビ・ラジオ」、「店頭表示」となった(問8)。加えて、県が出す食と放射性物質に関する情報について「とてもわかりやすい」、「わかりやすい」とした回答者は合わせて36.5%であり、昨年度と比べて2.1ポイント低下した(問9)。

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みとしては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」、「県産農産物の安全性のPR」、「放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の順で要望が高く、継続した情報提供が求められている(問14)。

### II 食の安全安心について (問16～問26)

回答者の56.6%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じているが、昨年度と比べて3.4ポイント低下した(問16)。最も不安を感じる項目は「残留農薬」となり、次いで「環境汚染物質」と「輸入食品の安全性」の順となった(問17)。

食品の安全安心を確保するために重要だが、十分に行われていないと認識されている取り組みは、「輸入食品の検査体制の強化」、「違反、事件、事故の速やかな情報公開」、「食品の衛生・監視指導の強化」、「食品製造企業の自主管理体制の強化」などであった(問19)。

さらなる食の安全安心に向けた県の取り組みとして望まれていることは、回答割合が高い順に「生産者の取り組みへの支援」、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「安全な農水産物生産環境づくり支援」などであった(問21)。

県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分」または「おおむね十分」とした回答者は45.2%であり、昨年度と比べて2.0ポイント上昇した(問23)。

# I 食と放射性物質について

## 問1 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| 1 非常に気にしている | 2 ある程度気にしている | 3 あまり気にしていない |
| 4 気にしていない   | 5 その他        |              |

放射性物質については、「非常に気にしている」(14.5%)、「ある程度気にしている」(54.7%)を合わせた69.2%の回答者が気にしており、昨年度に比べ2.1ポイント低下した。また、「あまり気にしていない」(26.1%)、「気にしていない」(4.4%)を合わせた回答者は30.5%で、昨年度に比べ2.0ポイント上昇した。

男女別では、有意差は見られない。

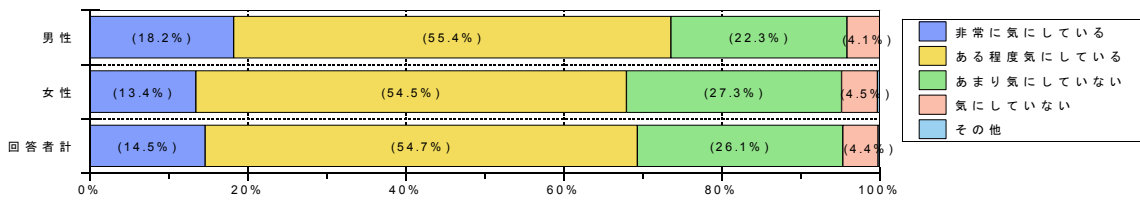
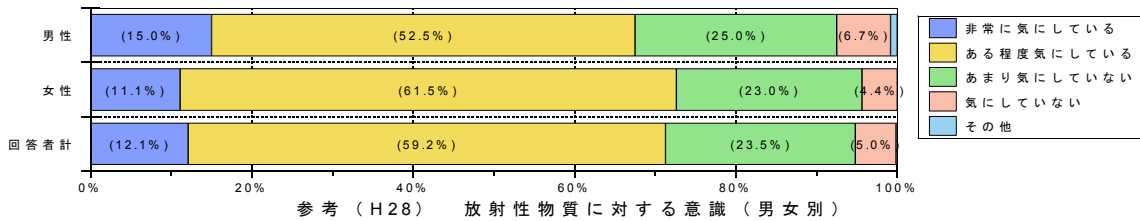


図1-1 放射性物質に対する意識 (男女別)



参考 (H28) 放射性物質に対する意識 (男女別)

年代別では有意差が見られ、「非常に気にしている」の項目では、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。「ある程度気にしている」の項目では、60代の回答割合が高い。「あまり気にしていない」、「気にしていない」の項目では、50代の回答割合が高い。

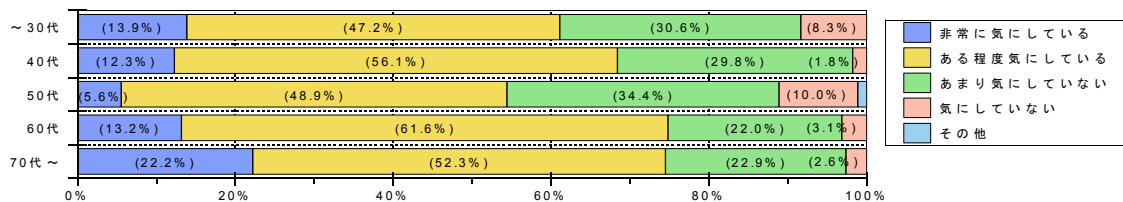


図1-2 放射性物質に対する意識 (年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

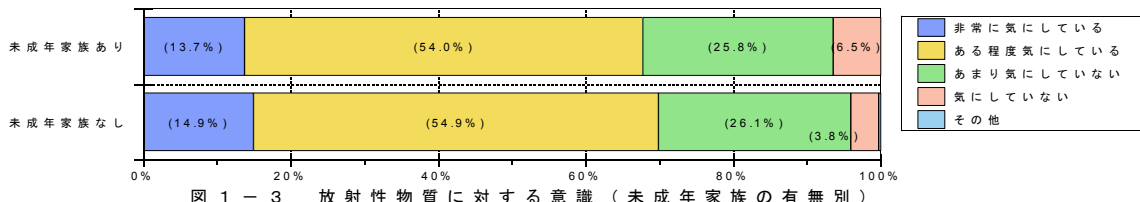


図1-3 放射性物質に対する意識 (未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。

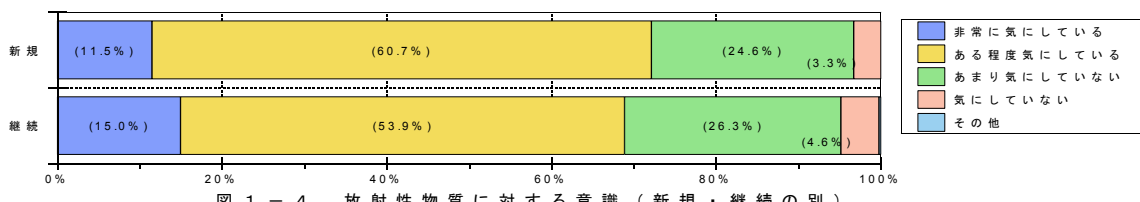


図1-4 放射性物質に対する意識 (新規・継続の別)

## 問2 気にしている理由は何ですか。(複数回答, 問1の1, 2選択者のみ回答)

- |                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 1 基準値そのものが不安だから             | 2 検査体制が不安だから   |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | 4 人体への影響が不安だから |
| 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから     | 6 その他          |

問1で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(78.4%)が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(33.8%)、「基準値そのものが不安だから」(33.2%)の順である。

男女別では、有意差は見られない。

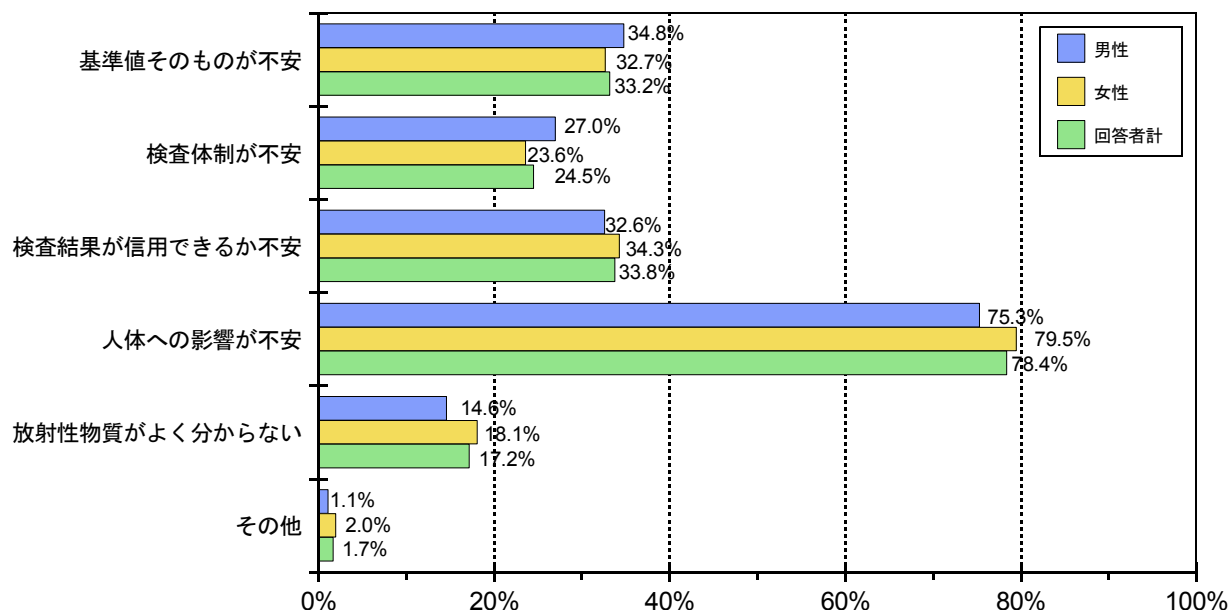
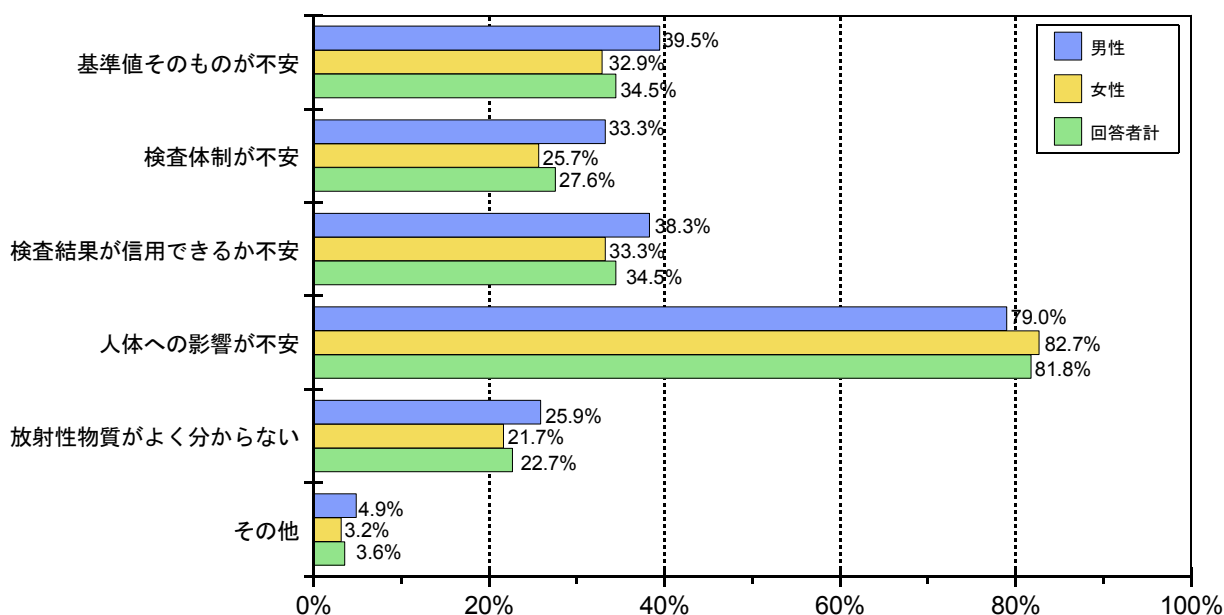


図2-1 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答



参考 (H28) 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

年代別では「そもそも放射性物質がよく分からず不安だから」の項目で有意差が見られ、60代の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。

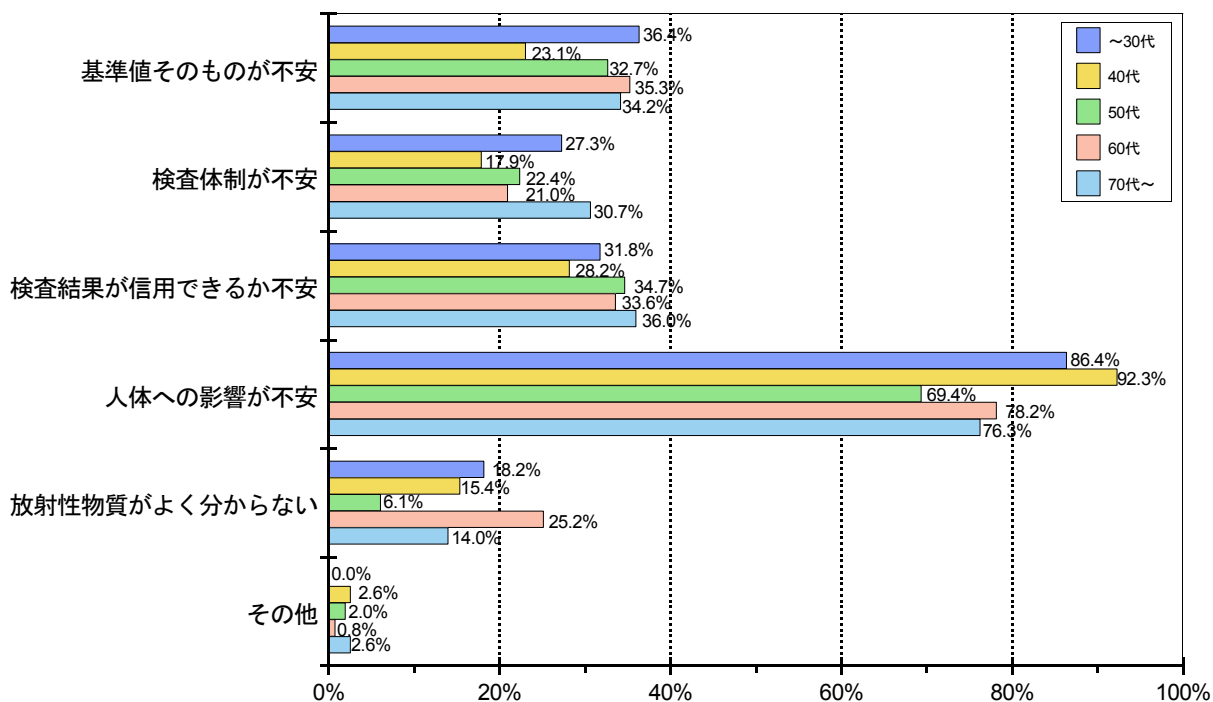


図 2-2 気にしている理由 (年代別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

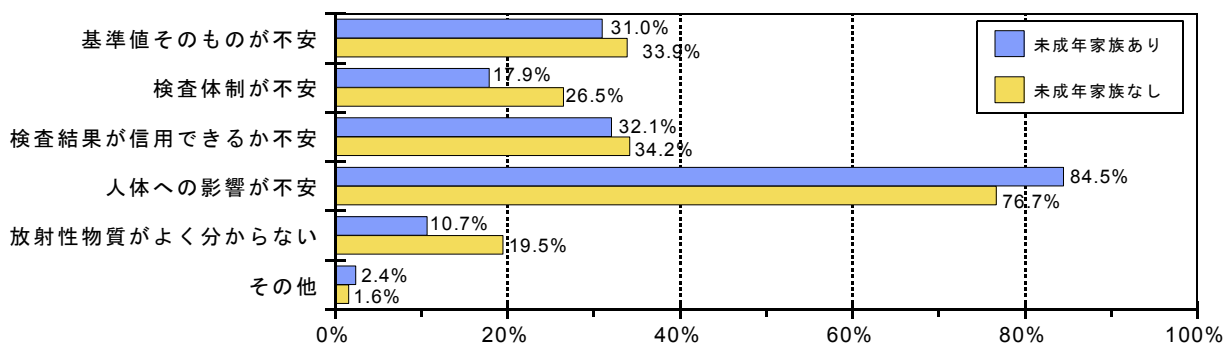


図 2-3 気にしている理由 (未成年家族の有無別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では「検査体制が不安だから」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が低い。

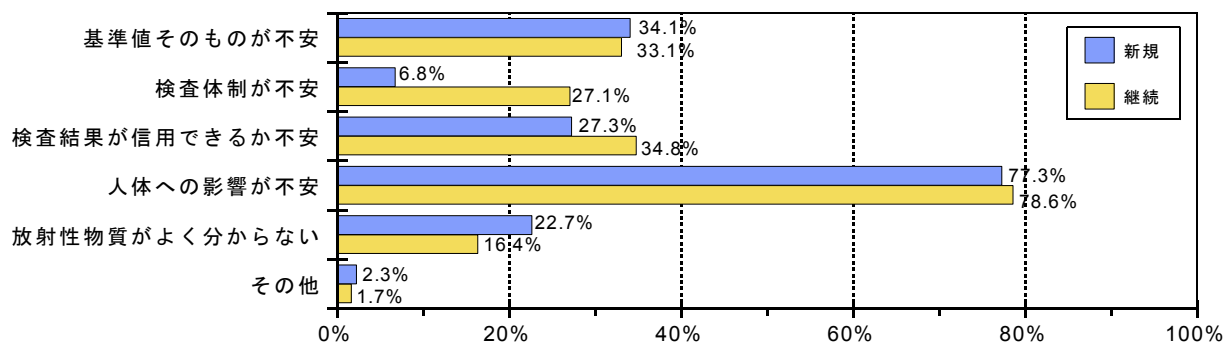


図 2-4 気にしている理由 (新規・継続の別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

問3 気にしていない理由は何ですか。(複数回答, 問1の3, 4選択者のみ回答)

- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことだから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

問1で「あまり気にしていない」または「気にしていない」の回答者のうち、その理由としては、「検査が十分に行われていると思っているから」(66.2%)が最も多く、次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(56.3%)の順である。また、昨年度に比べ、「基準値以下なら安全だと思っているから」は2.8ポイント低下し、「検査が十分に行われていると思っているから」は4.1ポイント上昇した。

男女別では、有意差は見られない。

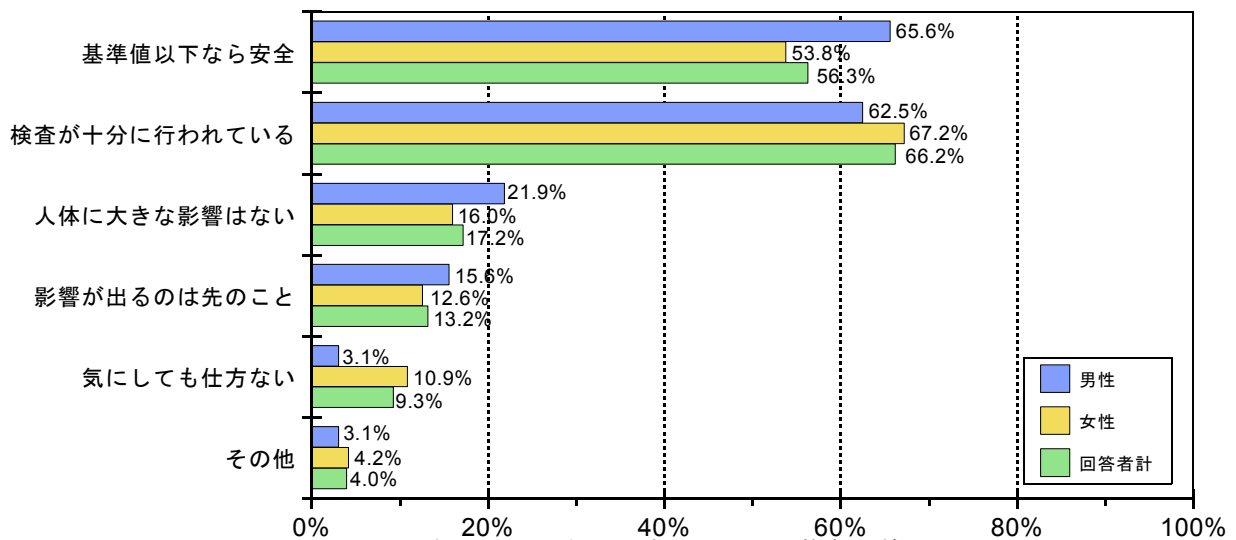
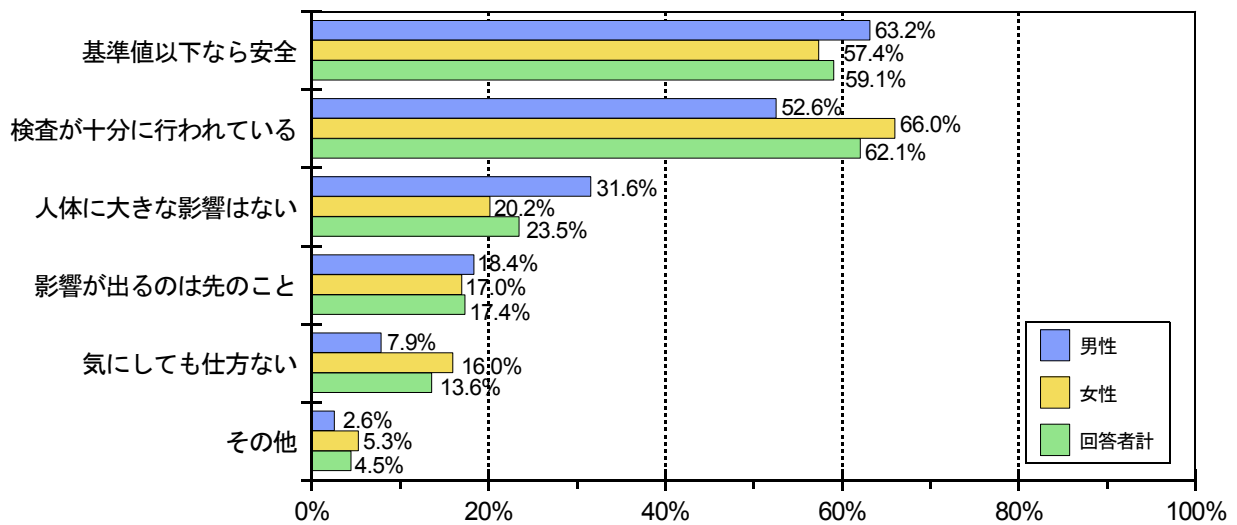


図3-1 気にしていない理由(男女別, 複数回答)  
※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答



参考(H28) 気にしていない理由(男女別, 複数回答)  
※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

年代別では、有意差は見られない。

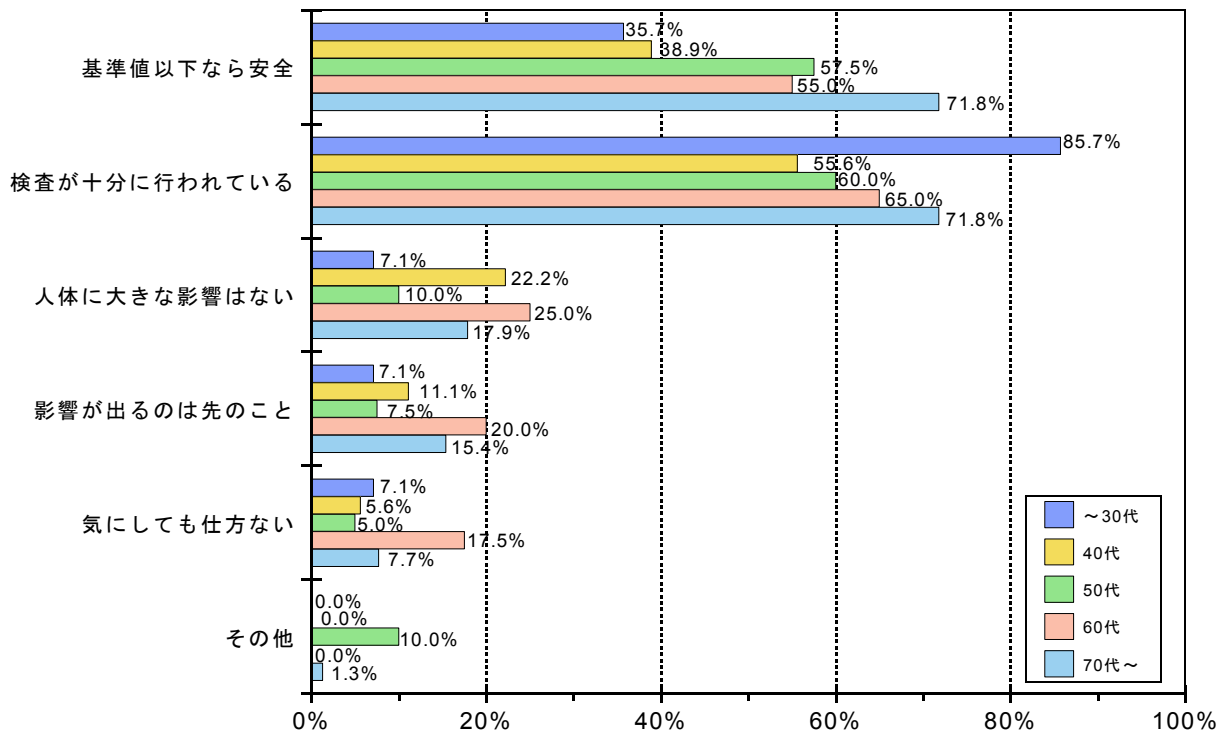


図3-2 気にしていない理由（年代別，複数回答）

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では「基準値以下なら安全だと思っているから」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

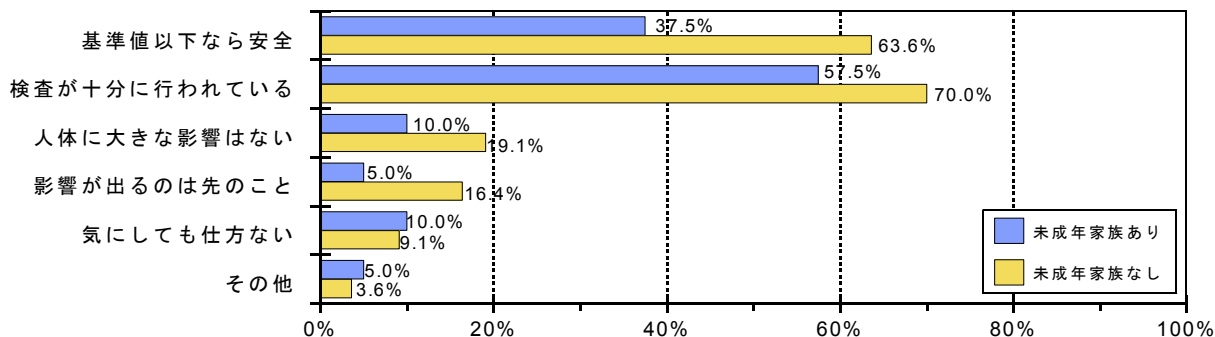


図3-3 気にしていない理由（未成年家族の有無別，複数回答）

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。

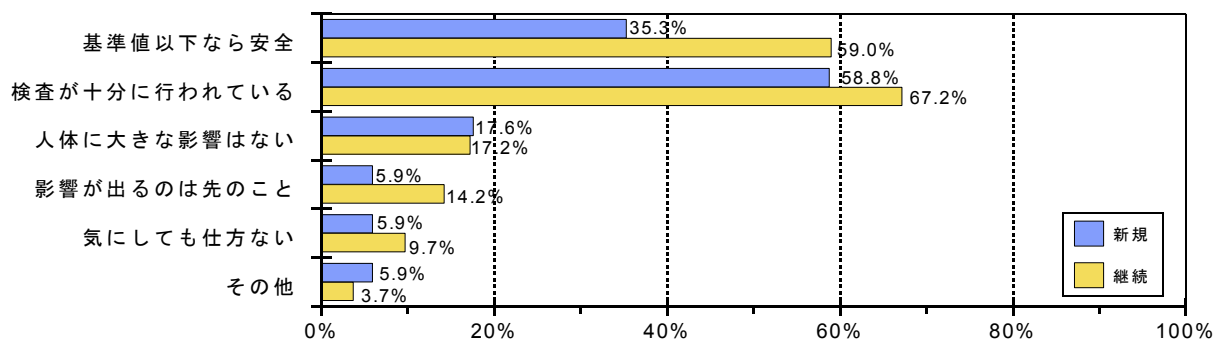


図3-4 気にしていない理由（新規・継続の別，複数回答）

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

#### 問4 現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと・山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にない

不安を抱えている食品としては、「きのこ・山菜類」(64.3%)、「魚介類」(58.9%)、「野菜」(35.3%)の順であり、昨年度同様、「きのこ・山菜類」,「魚介類」に対して不安を感じる人が多いが、その回答割合は低下している。一方、「不安な食品は特にない」(12.9%)は昨年度に比べ2.1ポイント上昇した。

男女別では「お茶」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。

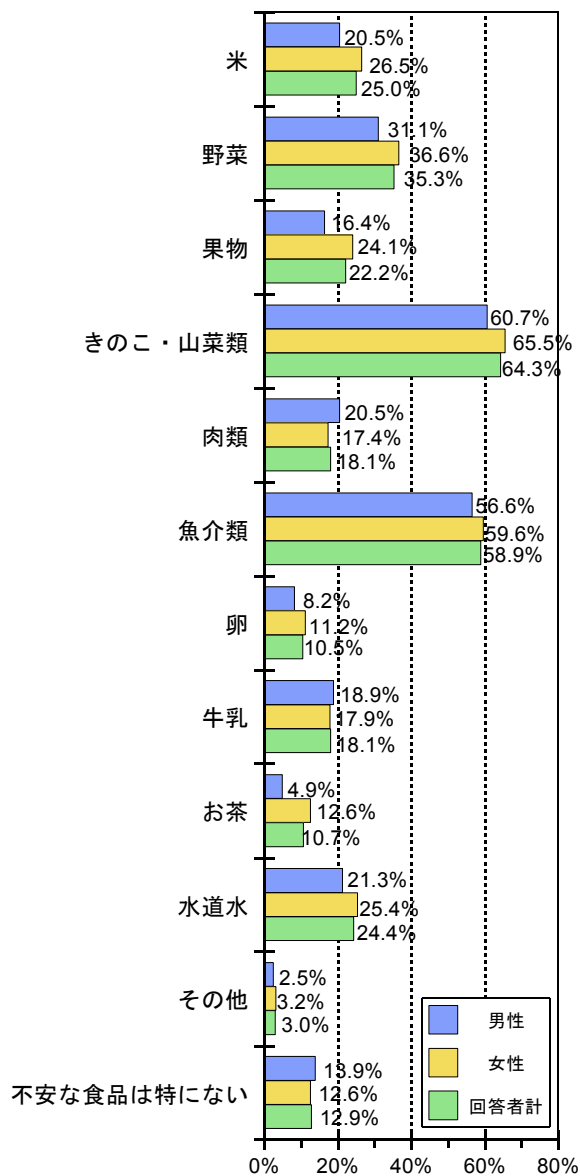
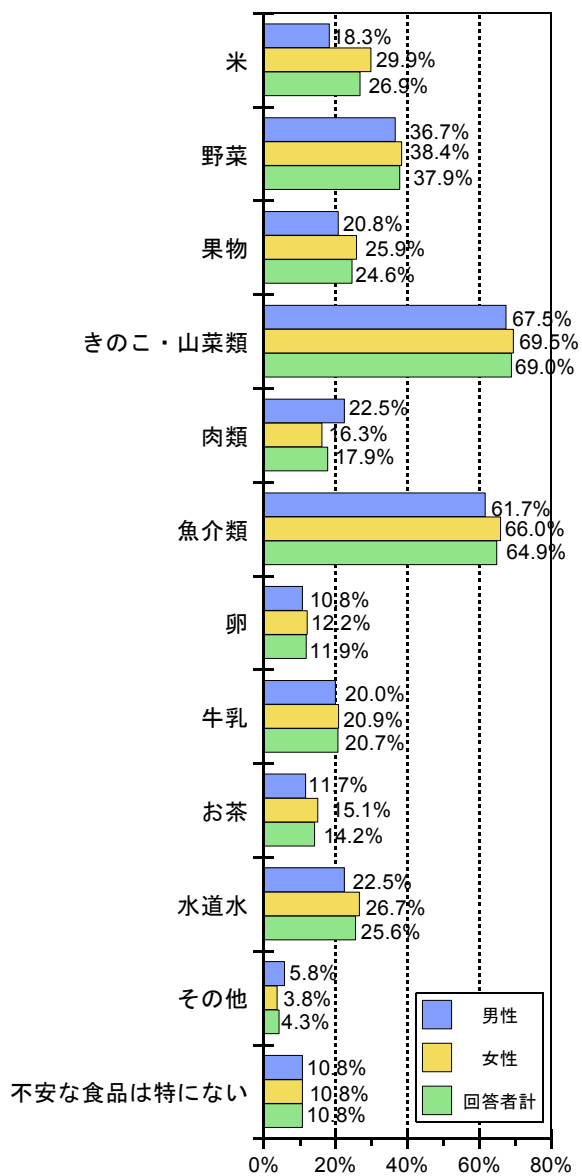


図4-1 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)



参考(H28) 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

年代別では有意差が見られ、「野菜」の項目では、30代以下の回答割合が高い。「きのこ・山菜類」の項目では、60代の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。「水道水」の項目では、60代の回答割合が高い。

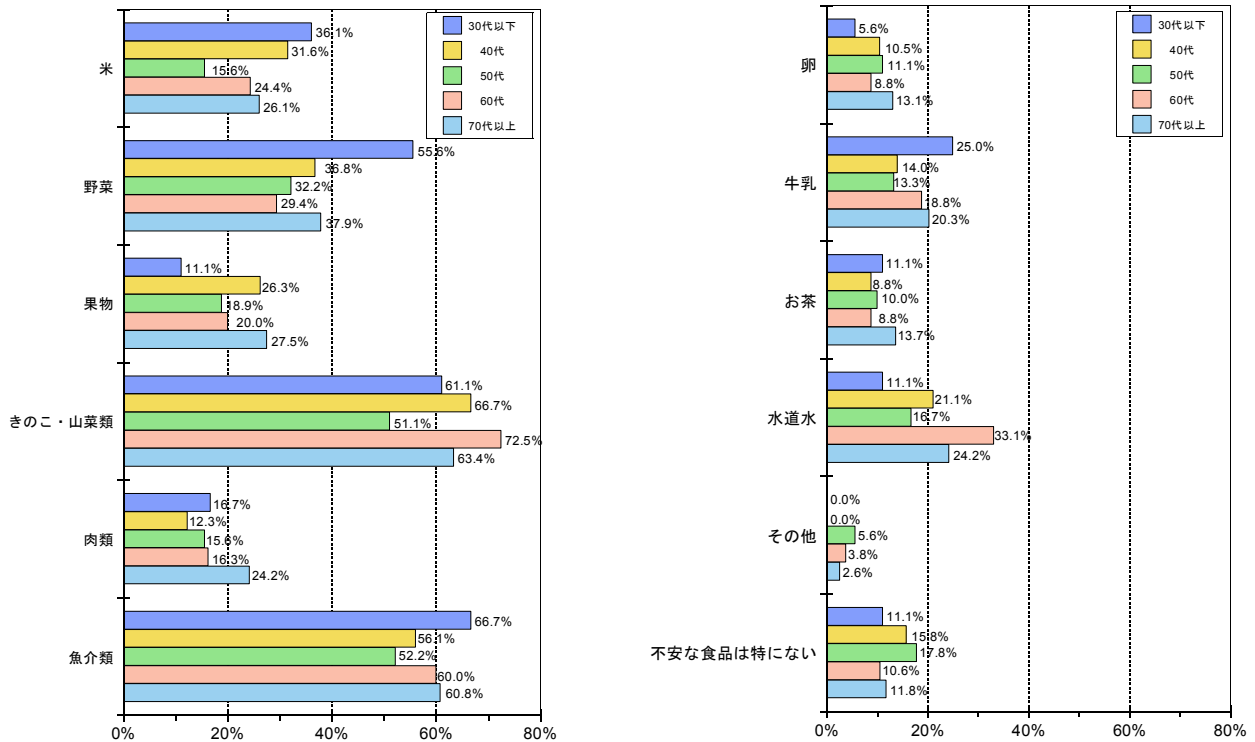


図 4-2 不安を感じる食品（年代別、複数回答）

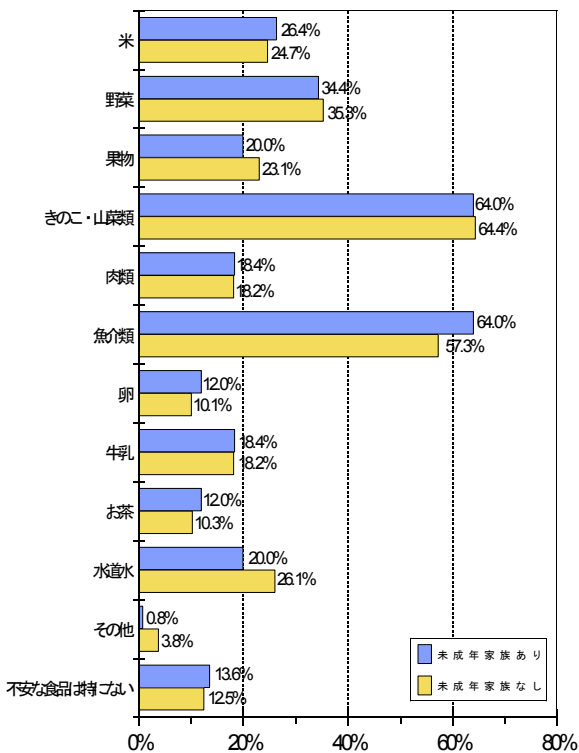


図 4-3 不安を感じる食品（未成年家族の有無別、複数回答）

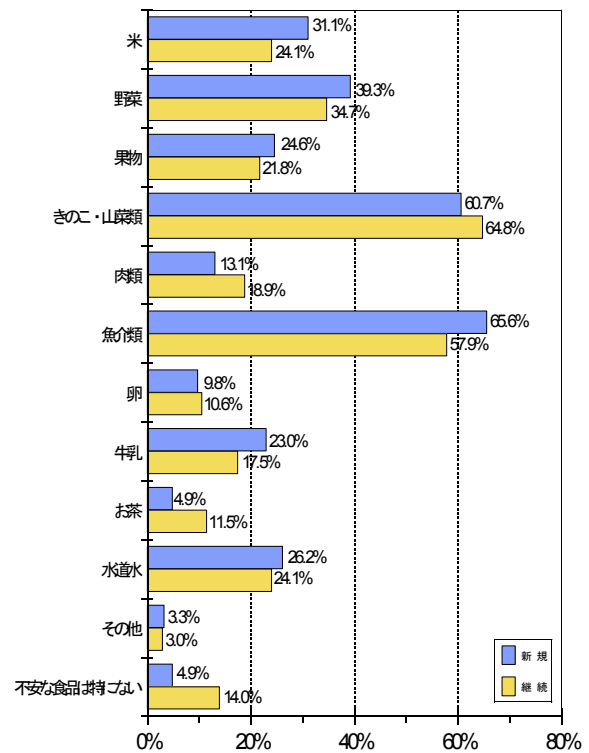


図 4-4 不安を感じる食品（新規・継続の別、複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。新規・継続の別では「不安な食品は特にない」の項目で有意差が見られ、継続モニターの手割割合が高い。

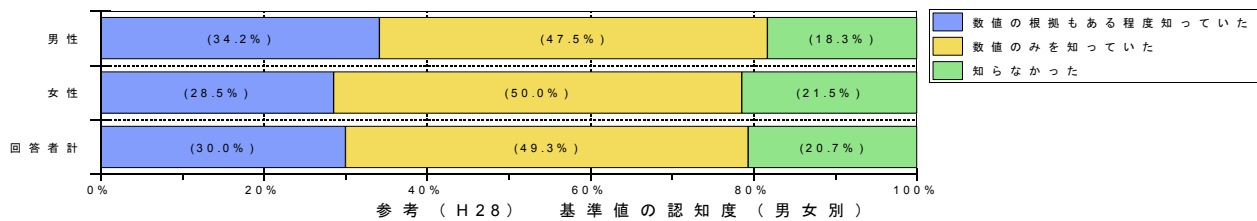
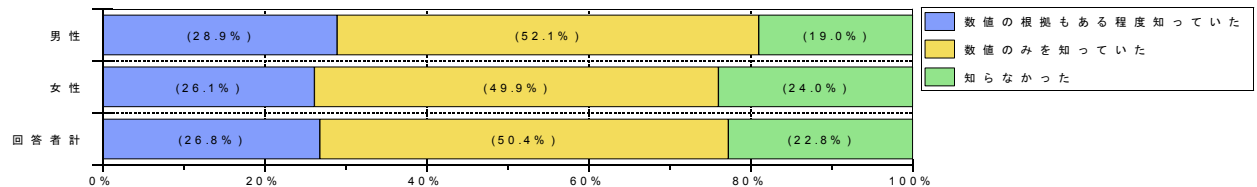


問5 一般食品における放射性セシウムの基準値は、1キログラムあたり100ベクレルですが、この数値を知っていましたか。(単一回答)

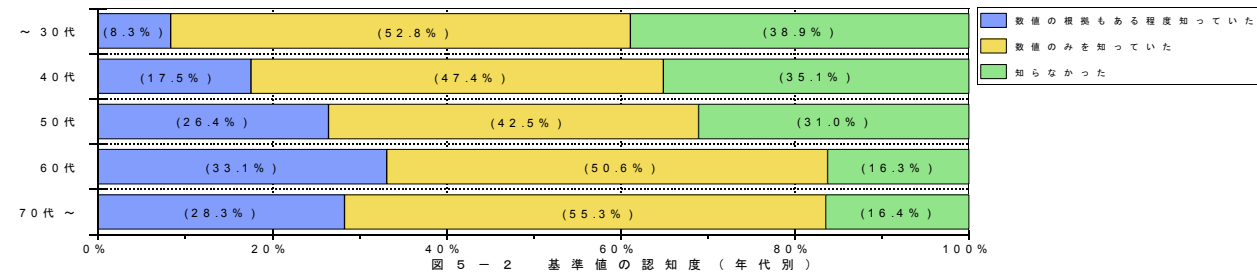
- |                           |          |
|---------------------------|----------|
| 1 知っていた (数値の根拠もある程度知っていた) | 3 知らなかった |
| 2 知っていた (数値のみを知っていた)      |          |

一般食品の基準値が「100Bq/kg」であることについて、「知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)」(26.8%)、「知っていた (数値のみを知っていた)」(50.4%)を合わせた、知っているとした回答者は77.2%であり、昨年度に比べ2.1ポイント低下した。

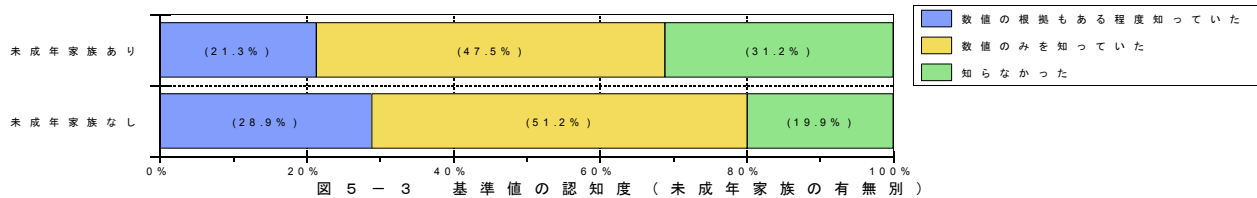
男女別では、有意差は見られない。



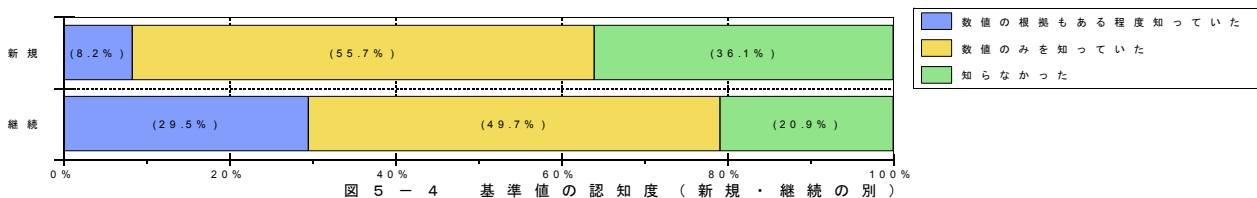
年代別では有意差が見られ、「知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)」の項目では、60代の回答割合が高く、30代以下の回答割合が低い。「知らなかった」の項目では、30代以下、40代及び50代の回答割合が高く、60代及び70代以上の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では「知らなかった」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



新規・継続の別では有意差が見られ、「知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)」の項目では、継続モニターの回答割合が高い。「知らなかった」の項目では、新規モニターの回答割合が高い。



問6 一般食品における放射性セシウムの基準値について、どう思いますか。(複数回答)

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 基準値以下なら安心         | 2 基準値以下でも不安       |
| 3 基準値はもっと厳しくしたほうがよい | 4 基準値はもっと緩めたほうがよい |
| 5 特に気にしていない         | 6 よく分からない         |
| 7 その他               |                   |

食品に対する基準値については、「基準値以下なら安心」(45.2%)と回答した者が昨年度同様最も多かった。

男女別では「よく分からない」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。

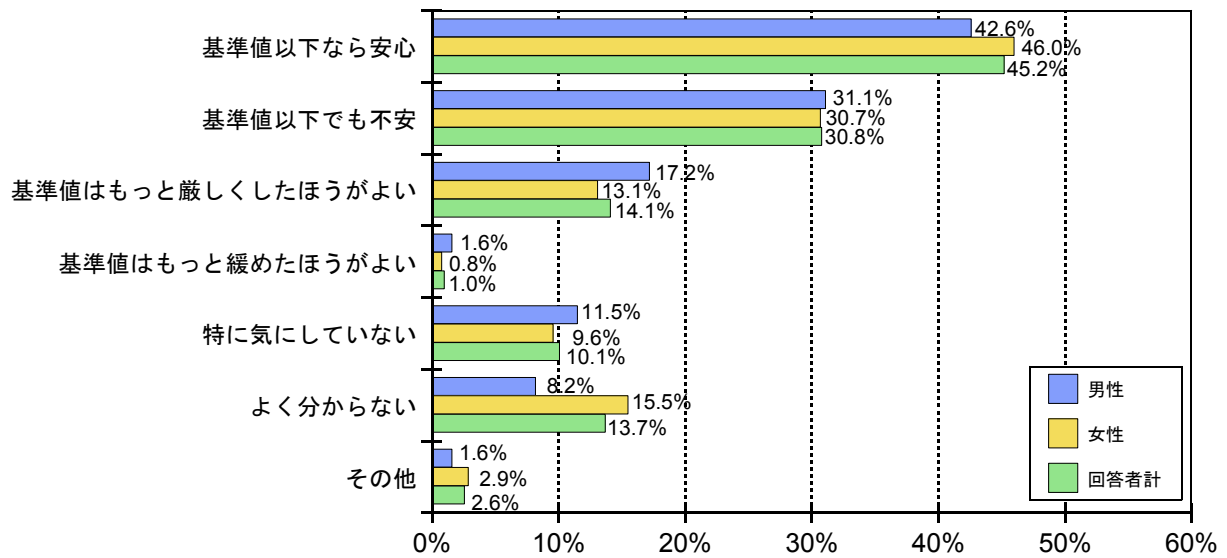
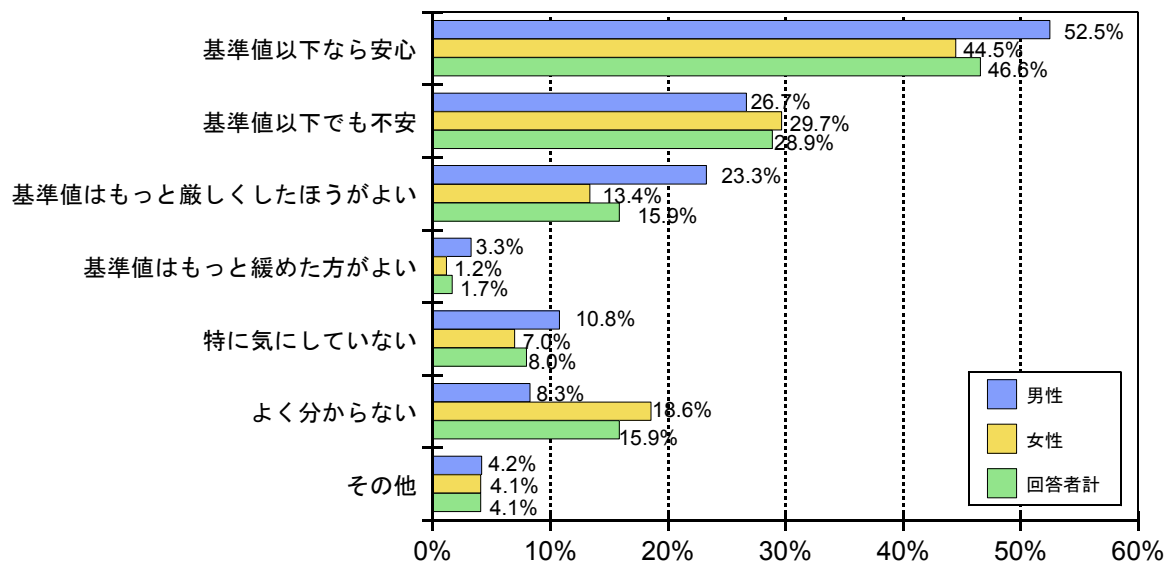


図6-1 基準値に対する意識 (男女別, 複数回答)



参考 (H28) 基準値に対する意識 (男女別, 複数回答)

年代別では「基準値はもっと厳しくしたほうがよい」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。

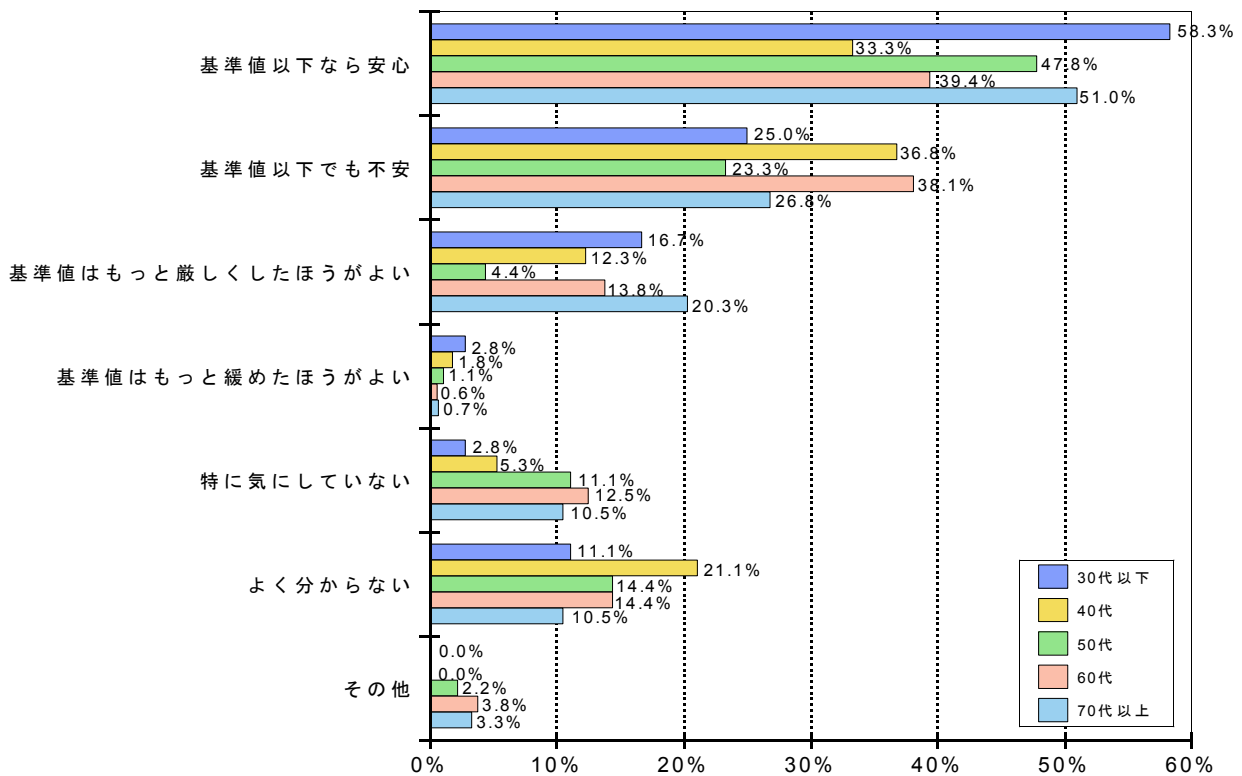


図 6 - 2 基準値に対する意識（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では，有意差は見られない。

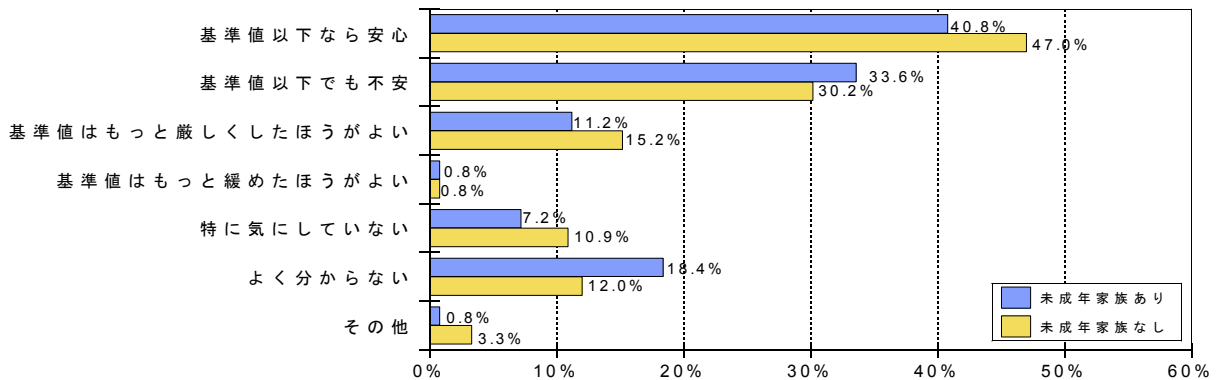


図 6 - 3 基準値に対する意識（未成年家族の有無別，複数回答）

新規・継続の別では，有意差は見られない。

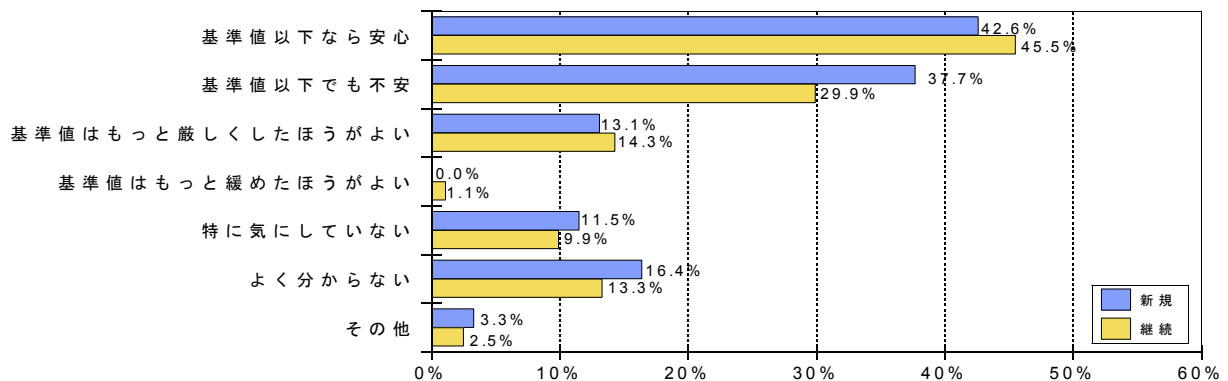


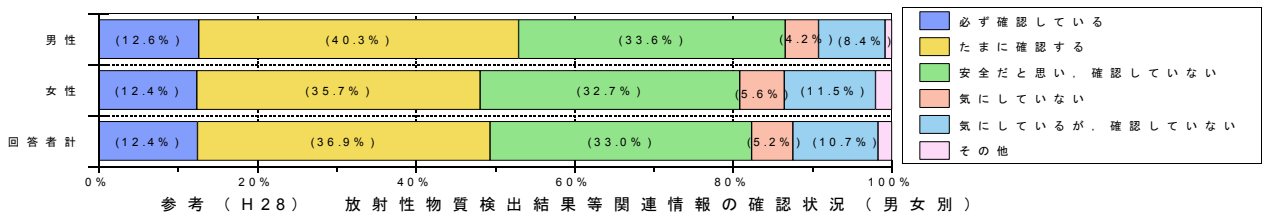
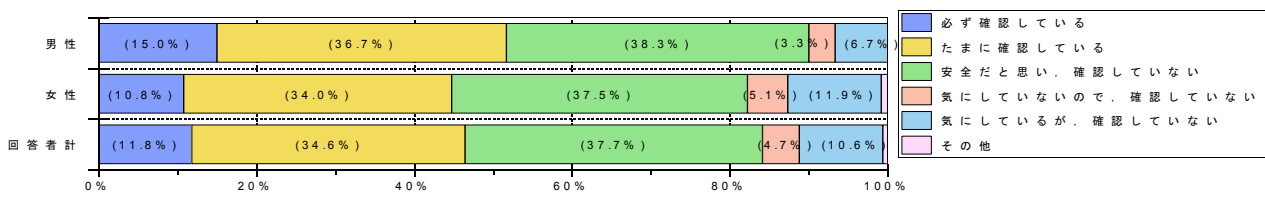
図 6 - 4 基準値に対する意識（新規・継続の別，複数回答）

問7 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

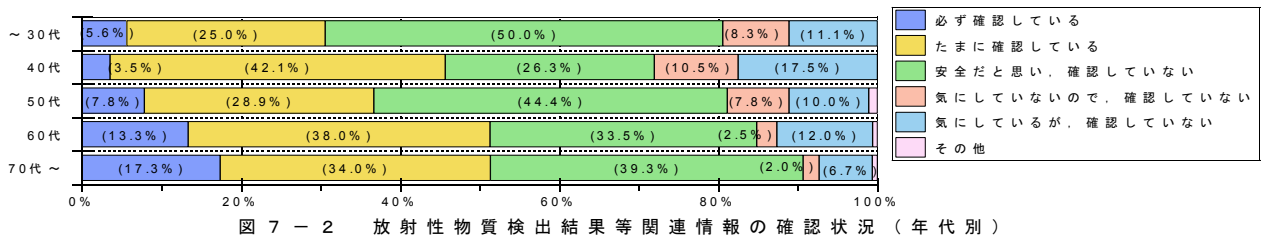
- |                               |             |
|-------------------------------|-------------|
| 1 必ず確認している                    | 2 たまに確認している |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認していない |             |
| 4 気にしていないので、確認していない           |             |
| 5 気にしているが、確認していない             | 6 その他       |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(11.8%)、「たまに確認している」(34.6%)を合わせて「確認している」が46.4%で、昨年度に比べ2.9ポイント低下した。一方、「売られているものは安全だと思っているので確認していない」(37.7%)、「気にしていないので、確認していない」(4.7%)、「気にしているが、確認していない」(10.6%)は合わせて53.0%であった。

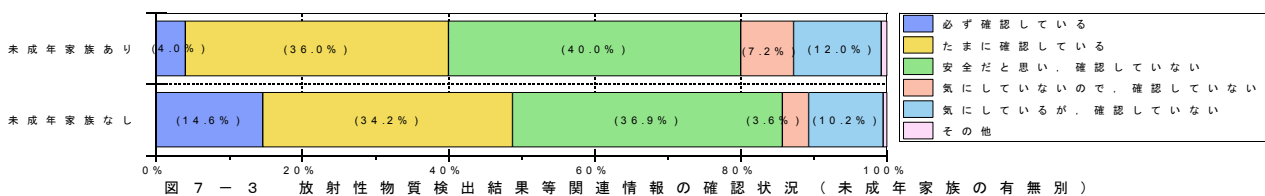
男女別では、有意差は見られない。



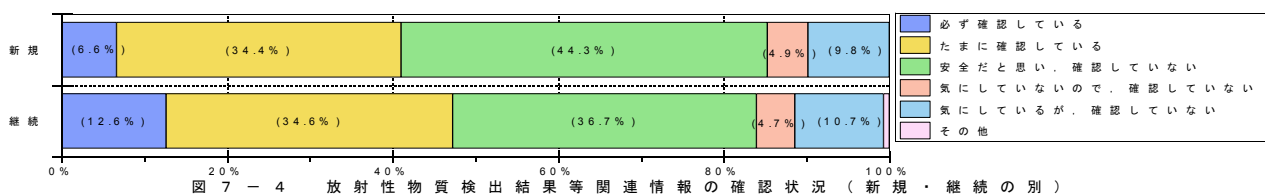
年代別では有意差が見られ、「必ず確認している」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。「気にしていないので、確認していない」の項目では、40代の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では「必ず確認している」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



問8 放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を、どのように確認していますか。(複数回答, 問7の1, 2選択者のみ回答)

1 宮城県のホームページ	2 市町村のホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 店頭表示	6 家族・友人・知人
7 その他		

食品を購入する時に放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していると回答した人のうち、情報の確認方法としては、「新聞」(69.3%)が最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」(46.1%),「店頭表示」(38.2%)の順となった。

男女別では、有意差は見られない。

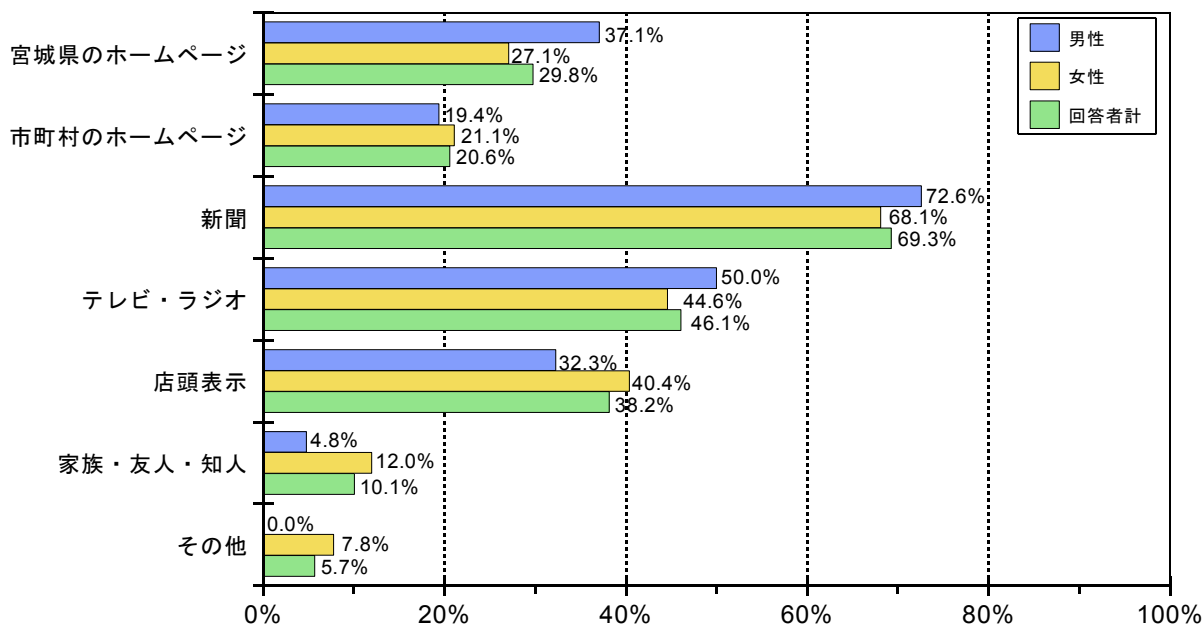
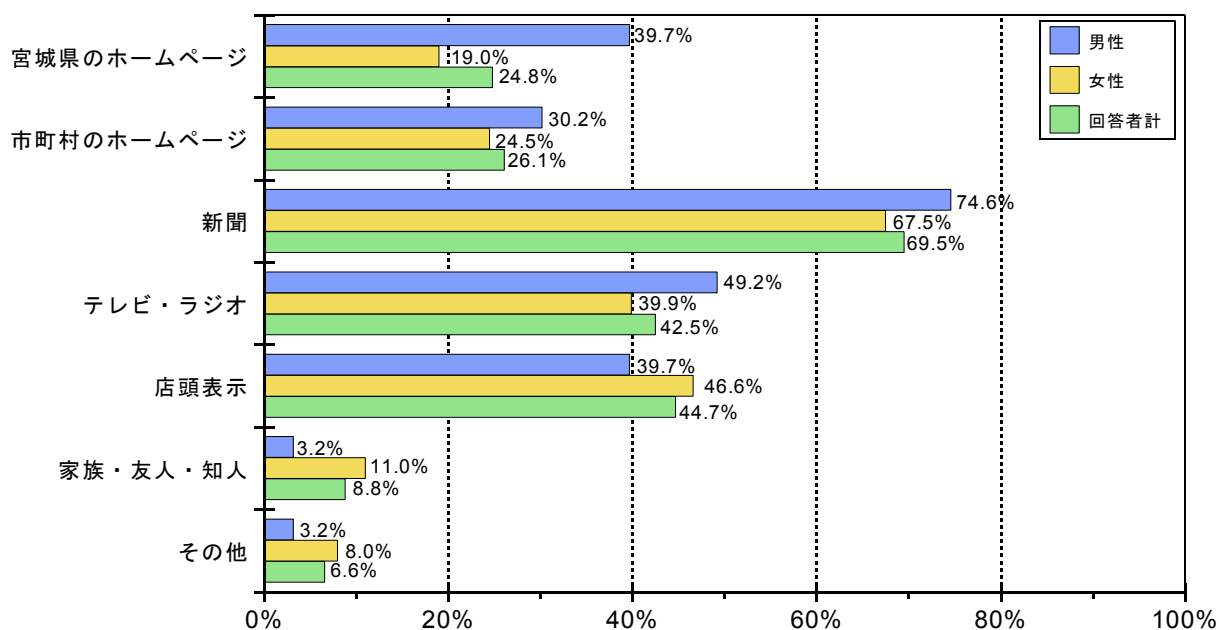


図8-1 放射性物質検出結果の情報の確認方法(男女別, 複数回答)  
※問7で1「必ず確認している」または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答



参考(H28) 放射性物質検出結果の情報の確認方法(男女別, 複数回答)  
※問7で1「必ず確認している」または2「たまに確認する」を選択した者のみ回答

年代別では「新聞」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。

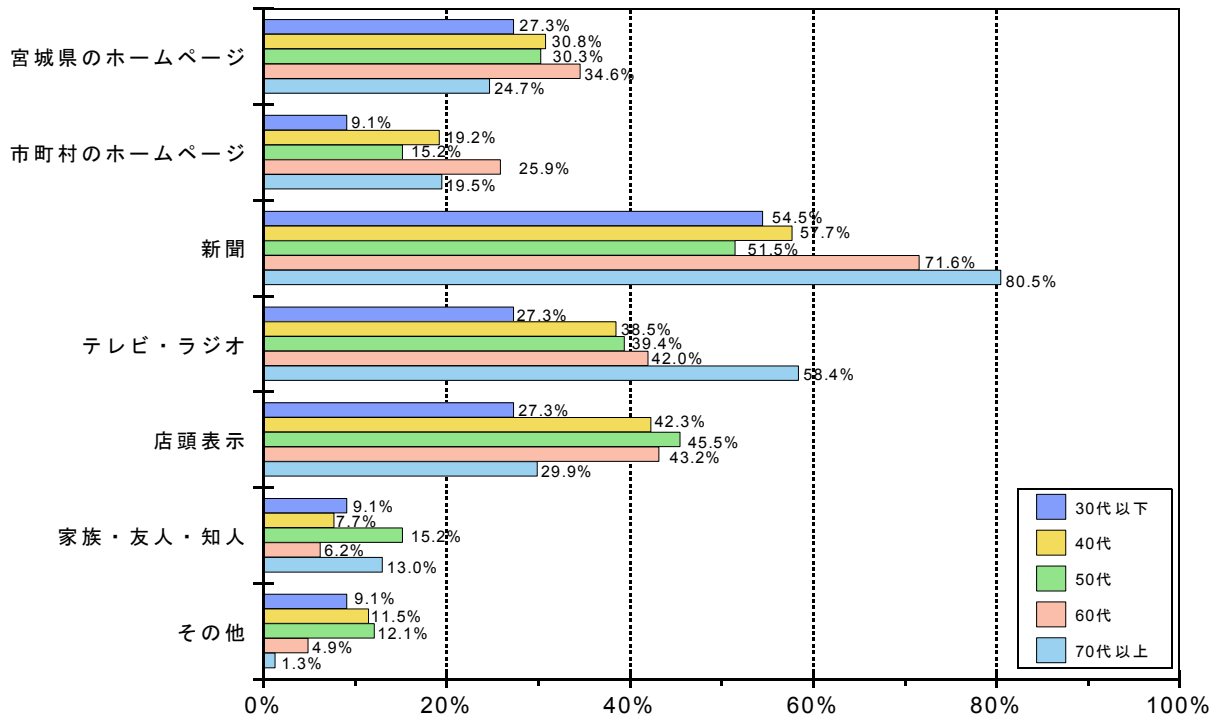


図 8 - 2 放射性物質検出結果の情報の確認方法（年代別，複数回答）  
※問 7 で 1 「必ず確認している」または 2 「たまに確認している」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では「新聞」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

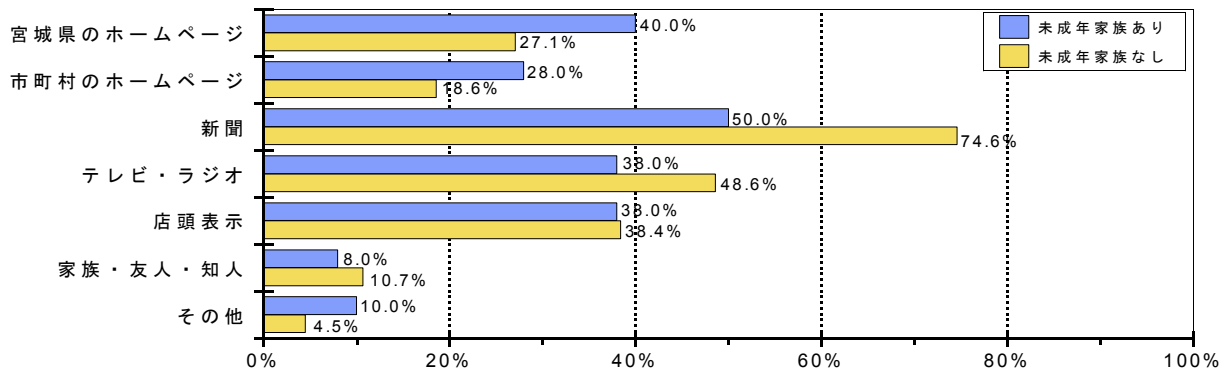


図 8 - 3 放射性物質検出結果の情報の確認方法（未成年家族の有無別，複数回答）  
※問 7 で 1 「必ず確認している」または 2 「たまに確認している」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。

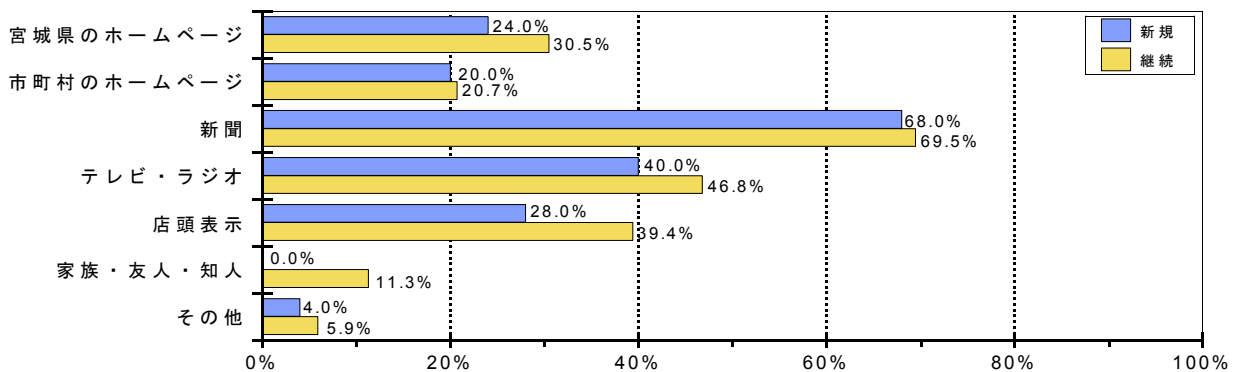


図 8 - 4 放射性物質検出結果の情報の確認方法（新規・継続の別，複数回答）  
※問 7 で 1 「必ず確認している」または 2 「たまに確認している」を選択した者のみ回答

問9 県が出す食と放射性物質に関する情報はわかりやすいですか。(単一回答)

- |             |             |           |
|-------------|-------------|-----------|
| 1 とてもわかりやすい | 2 わかりやすい    | 3 どちらでもない |
| 4 わかりにくい    | 5 とてもわかりにくい | 6 その他     |

県が出す食と放射性物質に関する情報について、「とてもわかりやすい」(2.4%)、「わかりやすい」(34.1%)を合わせた「わかりやすい」とする回答者は36.5%となり、昨年度に比べ2.1ポイント低下した。また、「わかりにくい」(12.8%)、「とてもわかりにくい」(2.0%)を合わせた「わかりにくい」とする回答者は14.8%となり、昨年度に比べ1.0ポイント低下した。

男女別では、有意差は見られない。

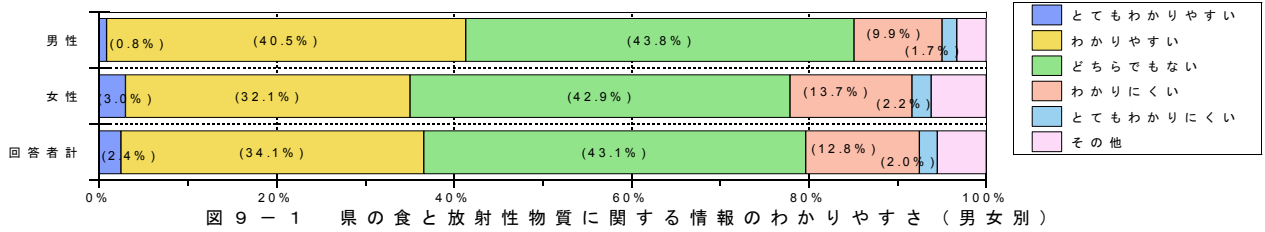
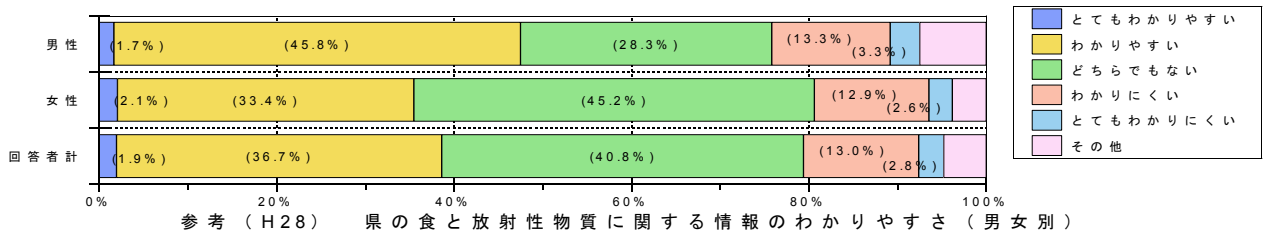


図9-1 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (男女別)



参考 (H28) 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (男女別)

年代別では、有意差は見られない。

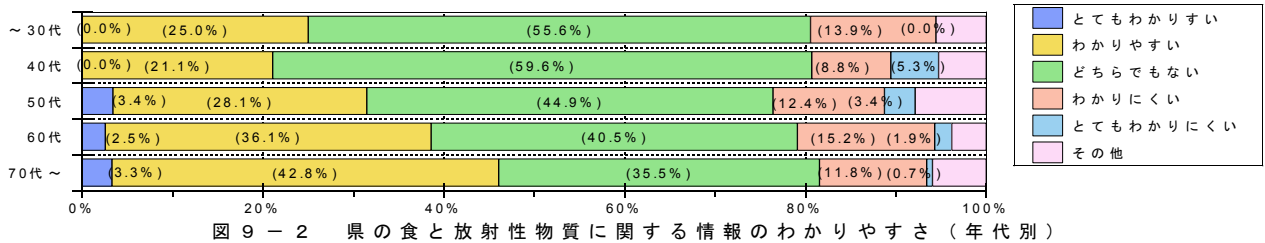


図9-2 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (年代別)

未成年家族の有無別では「とてもわかりにくい」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。

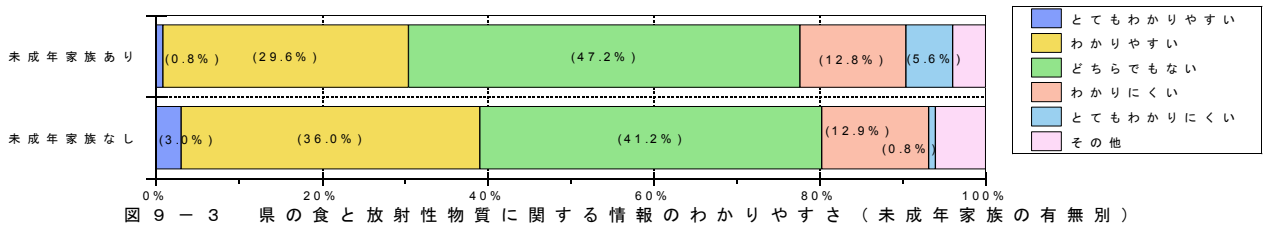


図9-3 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。

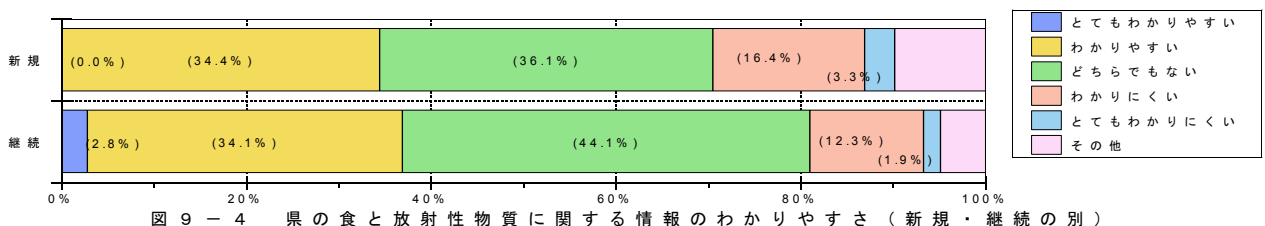


図9-4 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (新規・継続の別)

問10 ある産地（市町村単位）で1つの食品について基準値を超える放射性物質が検出された場合の、あなたの購買活動についてお聞きします。（単一回答）

- |   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| 1 | その産地の全ての農畜水産物について購入を控える              |
| 2 | 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する    |
| 3 | 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える |
| 4 | 特に気にせず購入する                           |
| 5 | その他                                  |

基準値を超える放射性物質が検出された場合の購買活動としては、「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する」（68.1%）が最も多く、昨年度に比べ0.3ポイント低下した。また、「その産地の全ての農畜水産物について購入を控える」（15.6%）は昨年度に比べ1.8ポイント上昇した。「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える」（6.1%）は昨年度に比べ2.8ポイント低下した。

男女別、年代別、未成年家族の有無別、新規・継続の別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

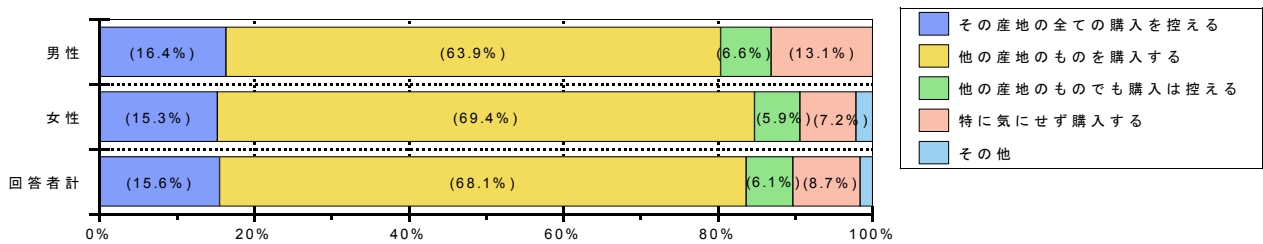


図10-1 基準値を超えた場合の購買活動（男女別）

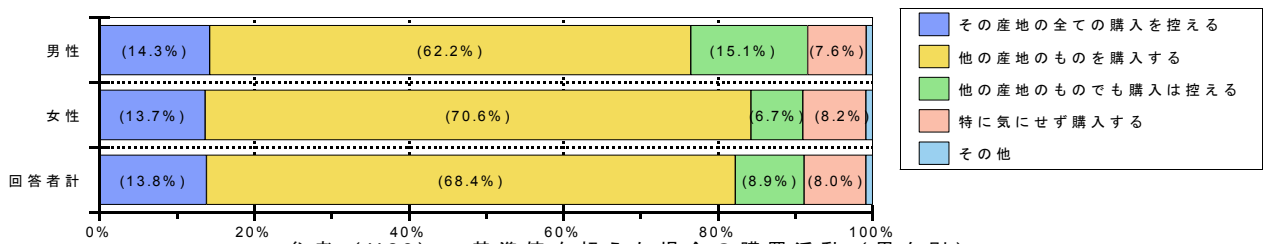


図10-2 参考（H28）基準値を超えた場合の購買活動（男女別）

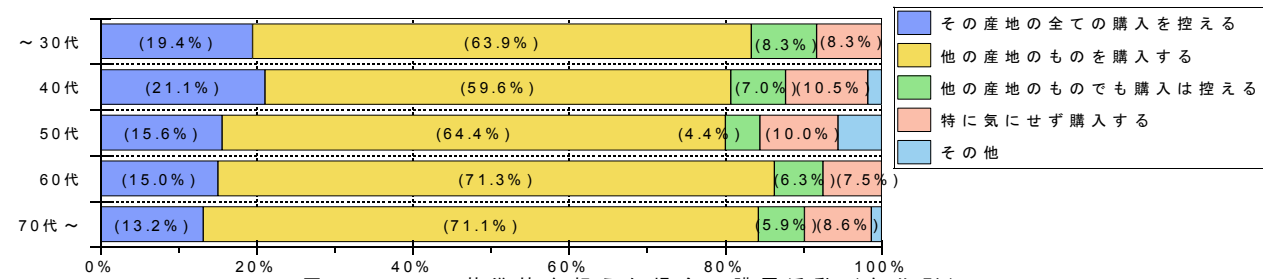


図10-3 基準値を超えた場合の購買活動（年代別）

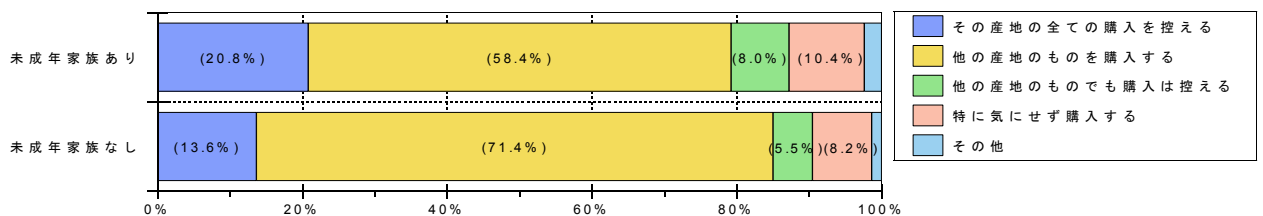


図10-4 基準値を超えた場合の購買活動（未成年家族の有無別）

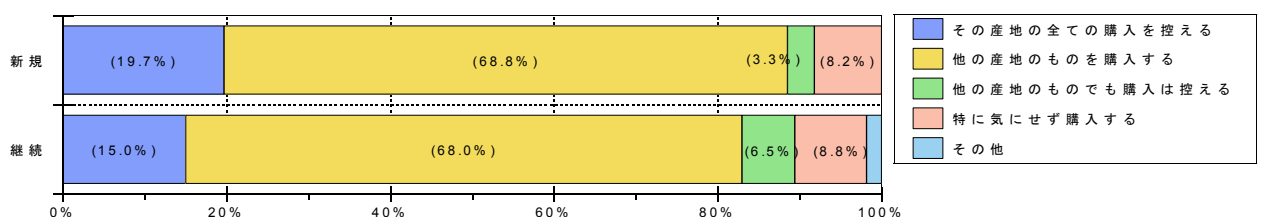


図10-5 基準値を超えた場合の購買活動（新規・継続の別）



問 1 1 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。(単一回答)

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 2 不検出なら食べる |
| 3 不検出であっても不安なので食べない  | 4 その他      |

一度基準値を超えた後に基準値以下あるいは不検出となった食品については、「不検出なら食べる」(59.2%)の回答割合が最も高かった。

男女別では、有意差は見られない。

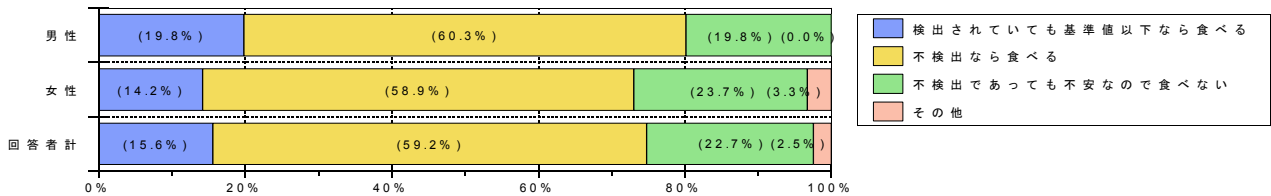
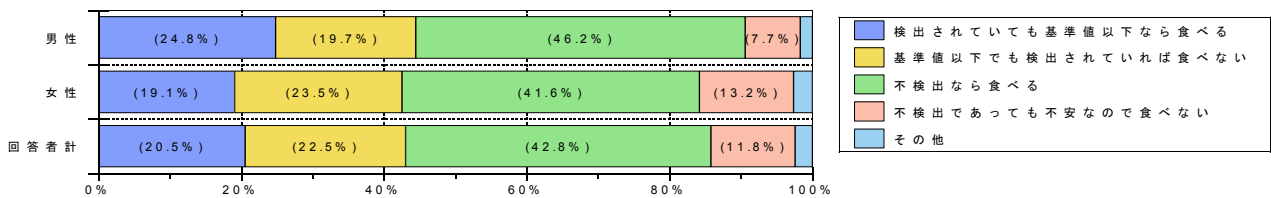


図 1 1 - 1 一度基準値を超えた食品の購買行動 (男女別)

※ 平成28年度は「基準値以下でも検出されていれば食べない」という選択肢を設けていたが、今年度は削除している。



参考 (H28) 一度基準値を超えた食品の購買行動 (男女別)

年代別では、有意差は見られない。

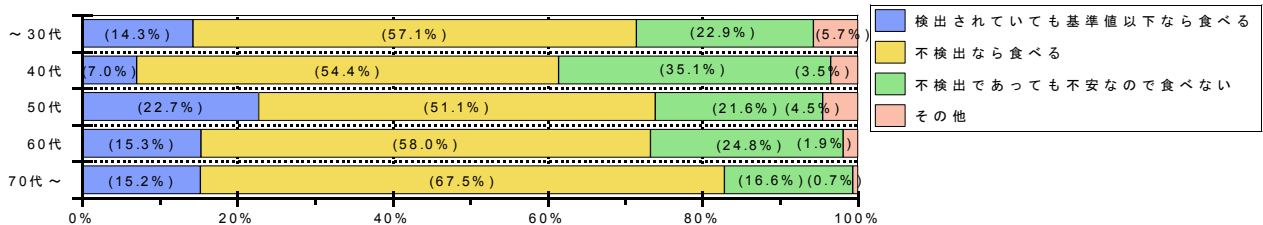


図 1 1 - 2 一度基準値を超えた食品の購買行動 (年代別)

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「不検出なら食べる」の項目では、「未成年家族なし」の回答割合が高い。「不検出であっても不安なので食べない」の項目では、「未成年家族あり」の回答割合が高い。

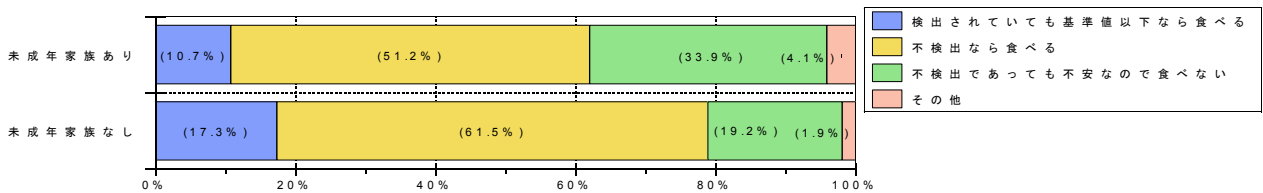


図 1 1 - 3 一度基準値を超えた食品の購買行動 (未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。

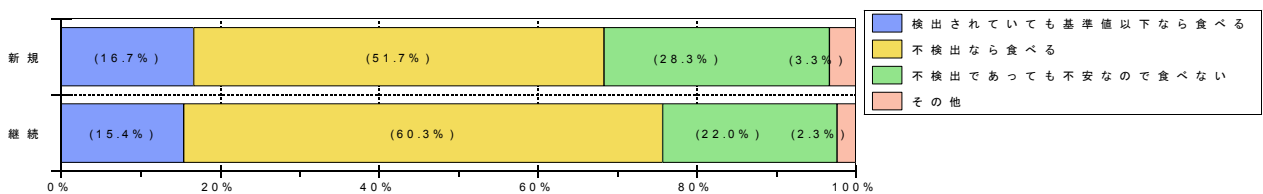


図 1 1 - 4 一度基準値を超えた食品の購買行動 (新規・継続の別)

問 1 2 福島第一原子力発電所事故後、食品を購入するとき、何か変わったことはありますか。(複数回答)

- 1 産地表示を必ず確認するようになった
- 2 宮城県産以外のものを買うようになった
- 3 国産より外国産を買うようになった
- 4 復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった
- 5 出荷制限等の情報を積極的に集めるようになった
- 6 店頭で放射性物質関連の情報を表示している店を選んで行くようになった
- 7 水道水の使用には気を遣い、ミネラルウォーターを買うようになった
- 8 特に変わりはない
- 9 その他

原発事故後の食品購入行動の変化としては、回答割合の高い順に「産地表示を必ず確認するようになった」(70.8%)、「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」(40.5%)、「出荷制限等の情報を積極的に集めるようになった」(19.2%)であった。

男女別では有意差が見られ、「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目では、女性の回答割合が高い。「出荷制限等の情報を積極的に集めるようになった」、「特に変わりはない」の項目では、男性の回答割合が高い。

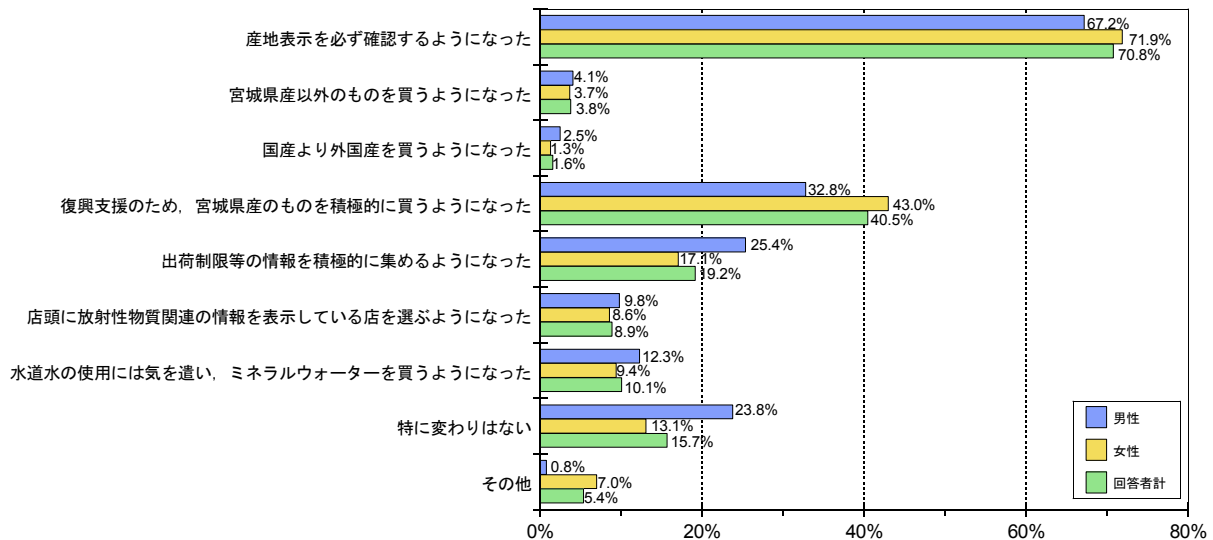
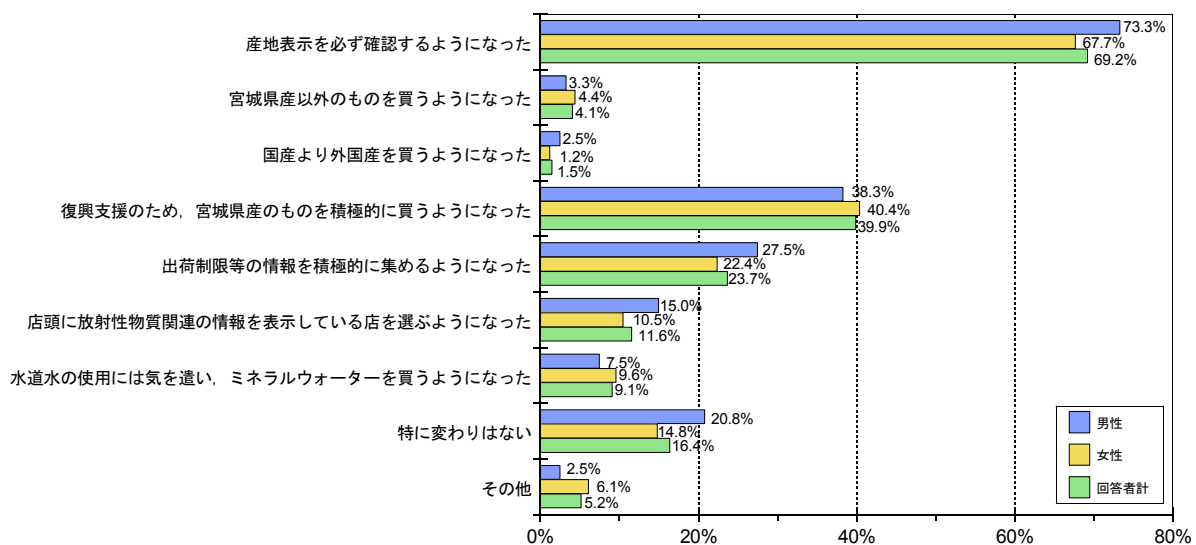


図 1 2 - 1 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別, 複数回答)



参考 (H28) 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別, 複数回答)

年代別では「出荷制限等の情報を積極的に集めるようになった」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高く、30代以下及び50代の回答割合が低い。

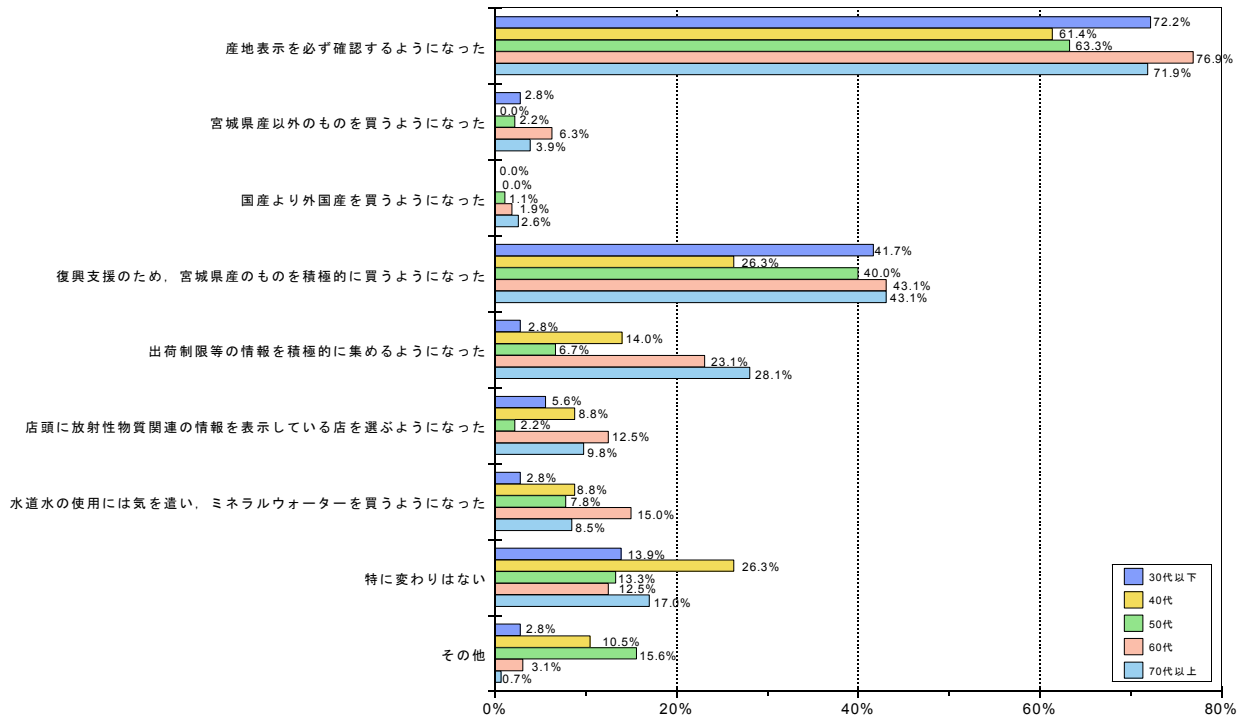


図 1 2 - 2 原発事故後の食品購入行動の変化（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では「出荷制限等の情報を積極的に集めるようになった」、「水道水の使用には気を遣い、ミネラルウォーターを買うようになった」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

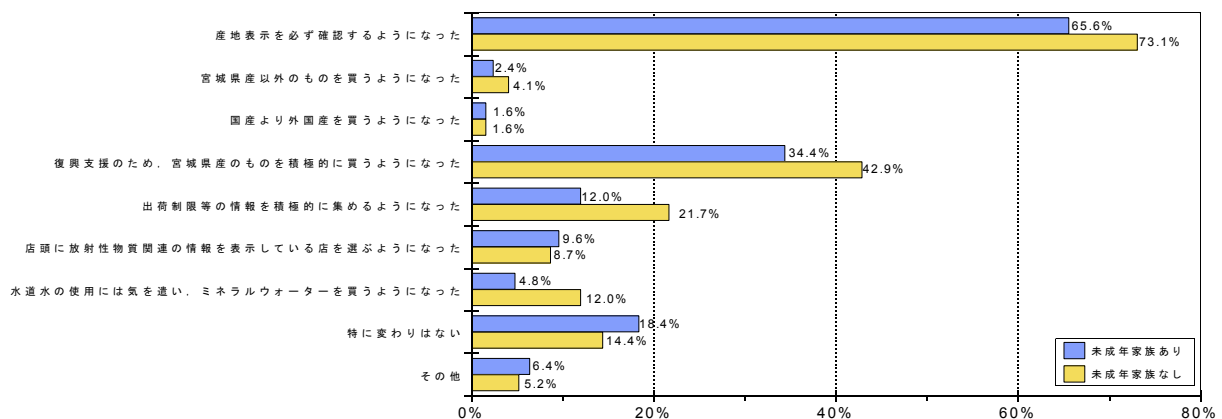


図 1 2 - 3 原発事故後の食品購入行動の変化（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では、有意差は見られない。

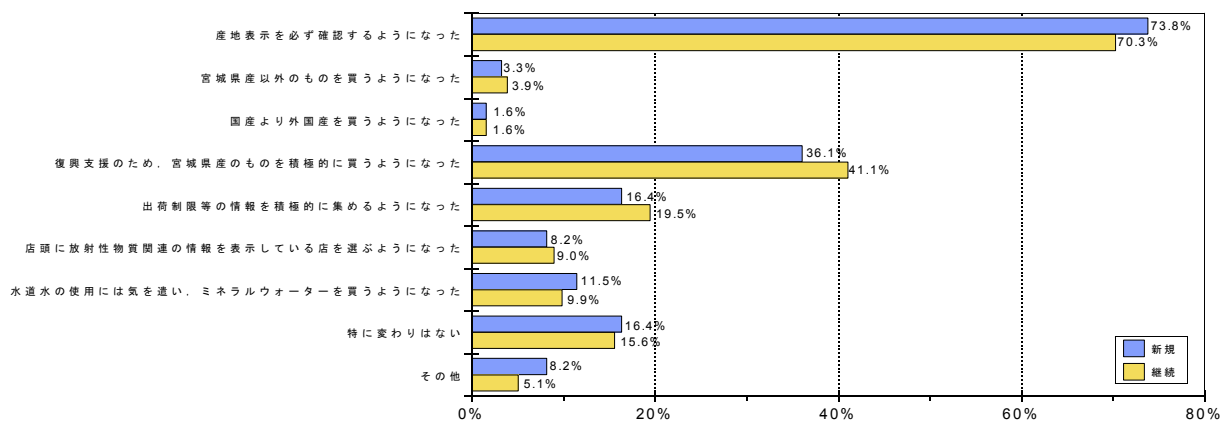


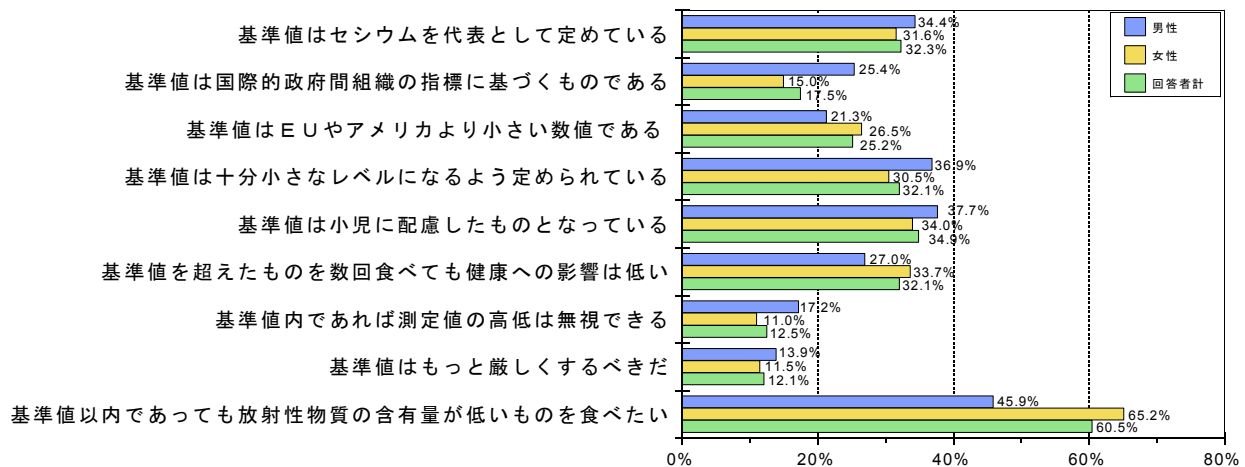
図 1 2 - 4 原発事故後の食品購入行動の変化（新規・継続の別、複数回答）

問 1 3 食品中の放射性物質の基準について、あなたが知っていることや思っていることとは何ですか。(複数回答)

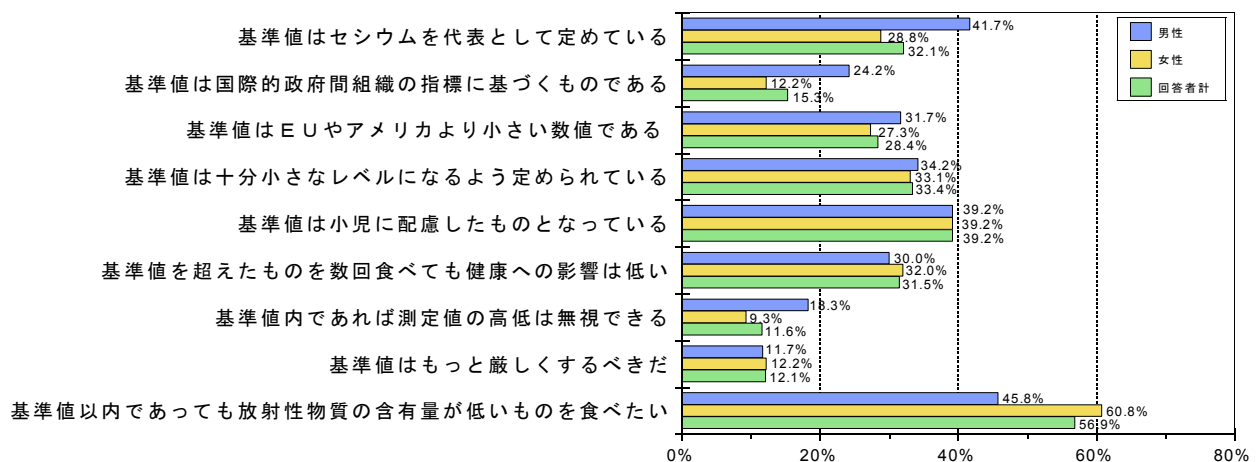
- 1 基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている
- 2 基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである
- 3 基準値はE Uやアメリカより小さい数値である
- 4 生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている
- 5 基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている
- 6 基準値を超えたものを数回程度食べたとしても、健康への影響は低い
- 7 基準値内であれば、測定値の高低は無視できる
- 8 基準値はもっと厳しくするべきだ
- 9 基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい

食品中の放射性物質の基準について知っていること、思っていることは、「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」(60.5%)が最も多く、次いで「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」(34.9%)、「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」(32.3%)の順である。

男女別では有意差が見られ、「基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである」の項目では、男性の回答割合が高い。「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」の項目では、女性の回答割合が高い。

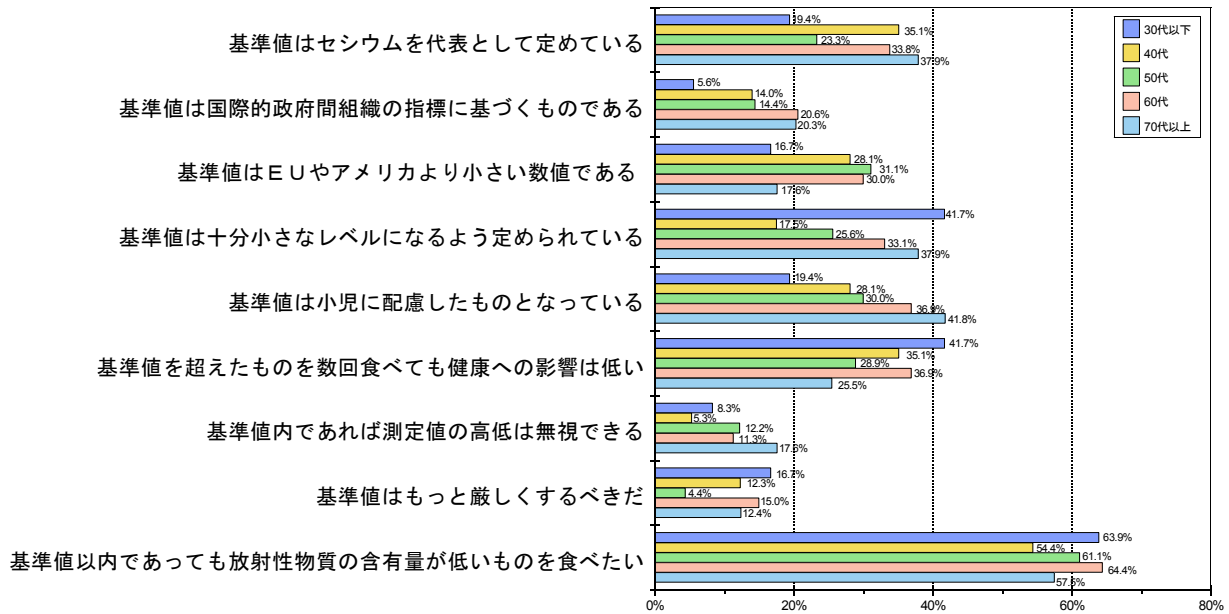


問 1 3 - 1 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること (男女別、複数回答)



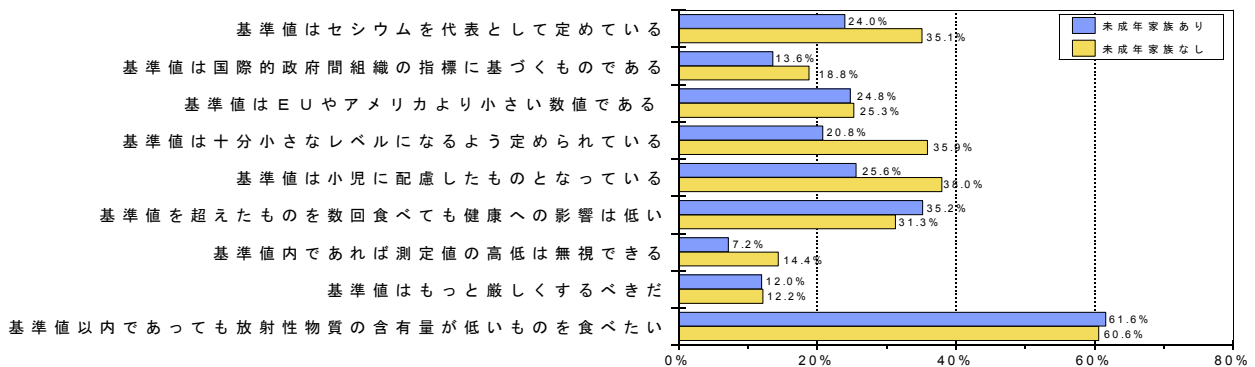
参考 (H28) 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること (男女別、複数回答)

年代別では有意差がみられ、「基準値はE Uやアメリカより小さい数値である」の項目では、70代以上の回答割合が低い。「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」の項目では、40代の回答割合が低い。



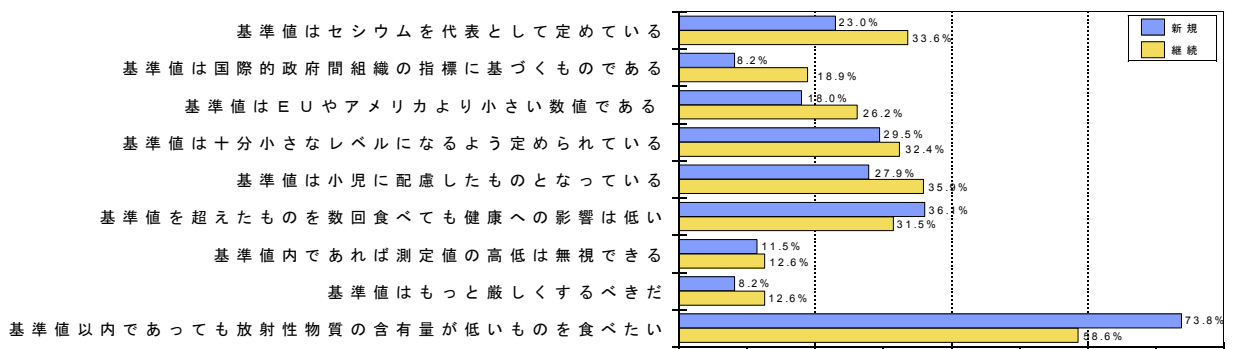
問 1 3 - 2 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」、「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」、「基準値内であれば、測定値の高低は無視できる」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



問 1 3 - 3 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では有意差が見られ、「基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである」の項目では、継続モニターの高回答割合が高い。「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」の項目では、新規モニターの高回答割合が高い。



問 1 3 - 4 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること（新規・継続の別、複数回答）

問 1 4 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みとして必要と思うものは何ですか。（複数回答）

- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みとしては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(70.8%)、「県産農産物の安全性のPR」(55.8%)、「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」(49.0%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(43.5%)の順で要望が高い。

男女別では「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。

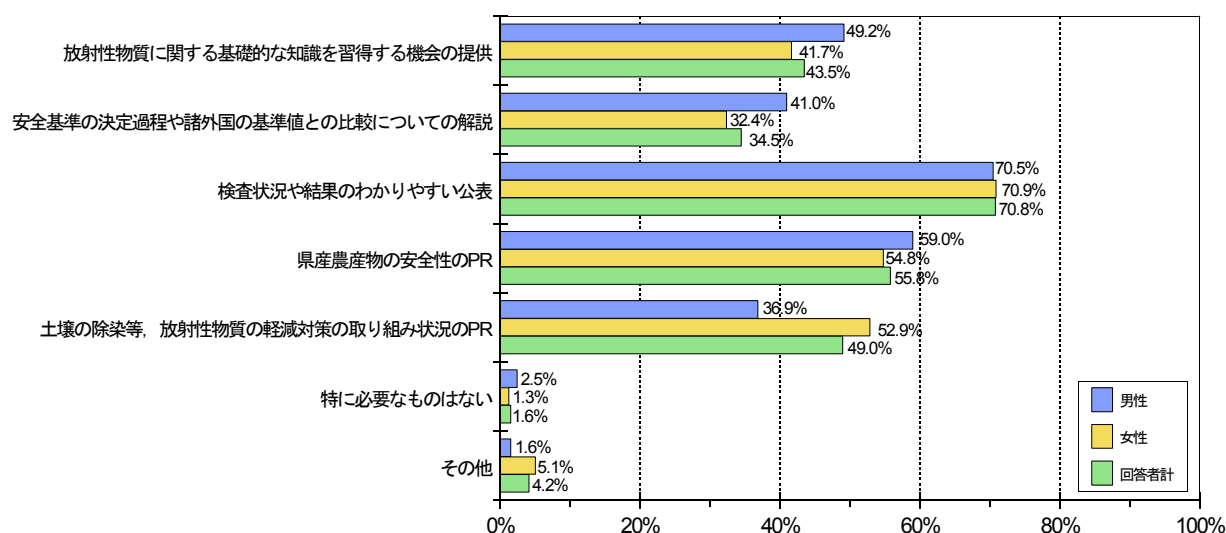
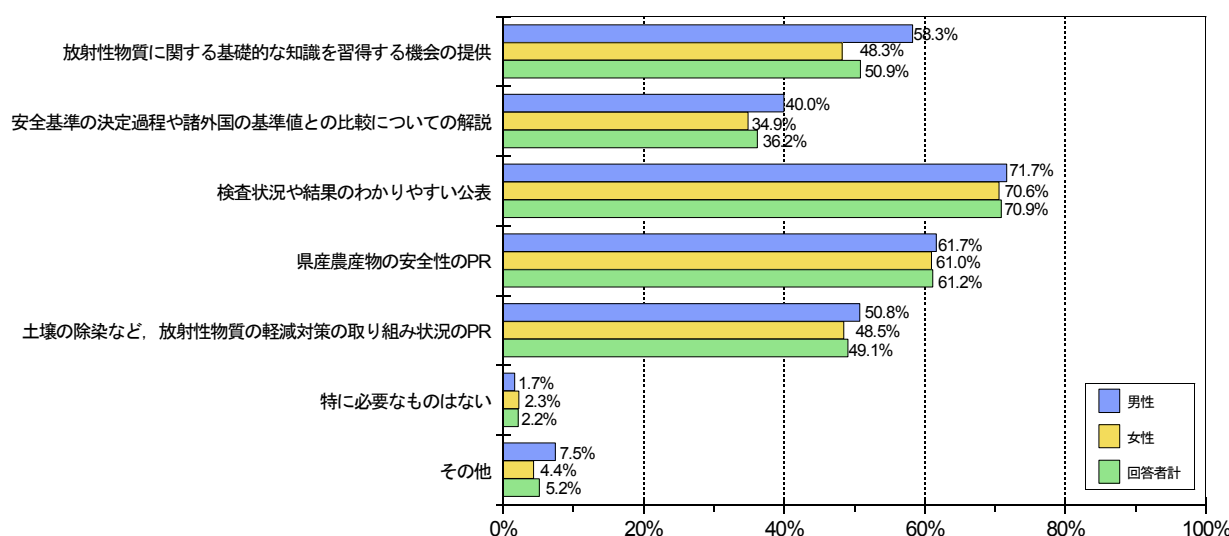


図 1 4 - 1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）



参考 (H28) 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）

年代別では有意差が見られ、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代及び50代の回答割合が低い。また、「検査状況や結果のわかりやすい公表」の項目では、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。

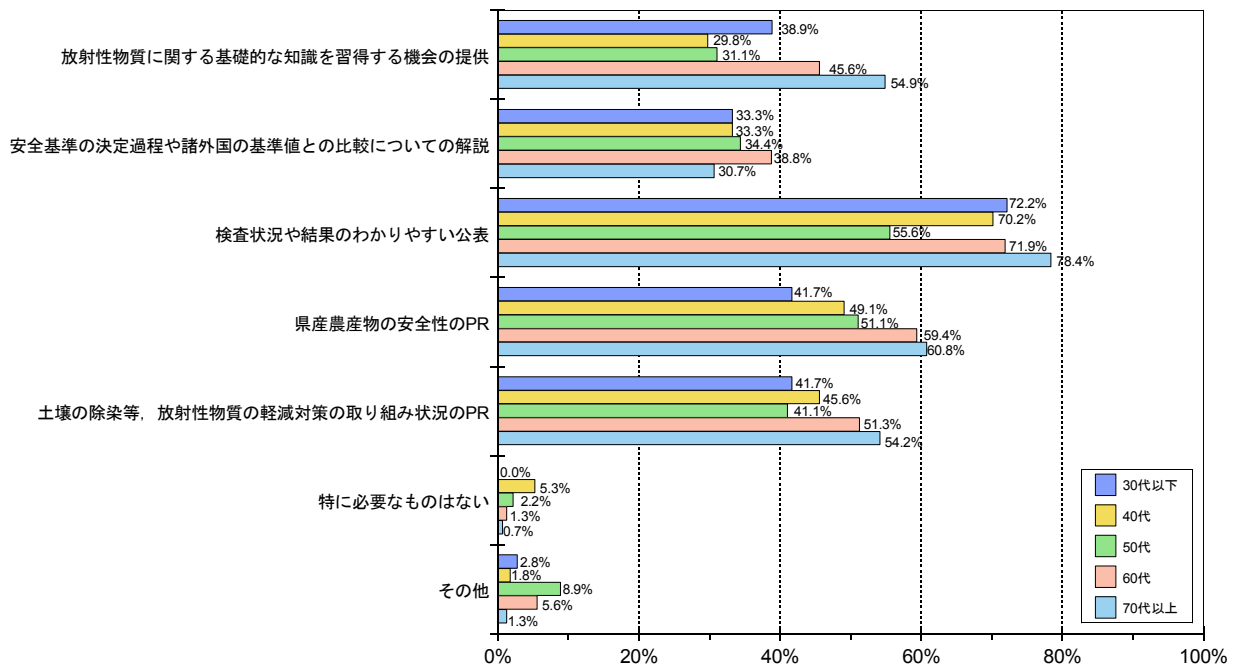


図 1 4 - 2 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」、「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」、「検査状況のわかりやすい公表」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

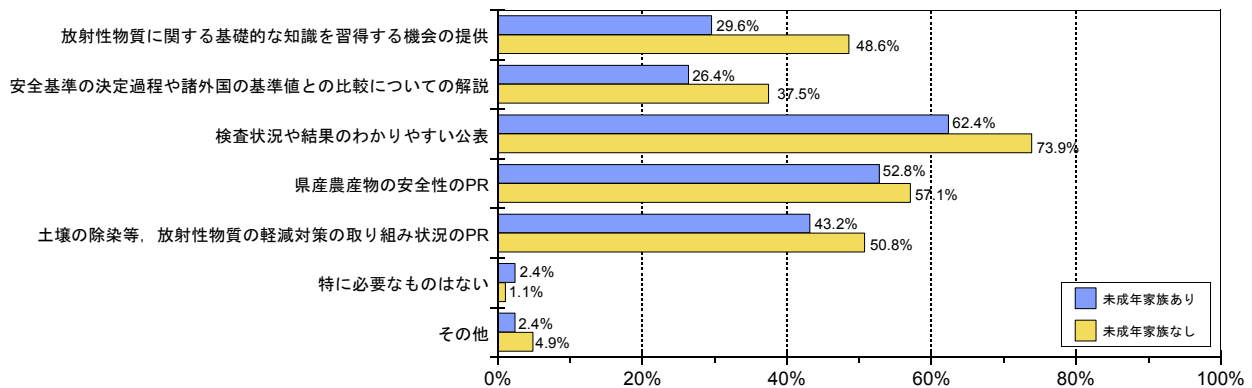


図 1 4 - 3 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では、有意差は見られない。

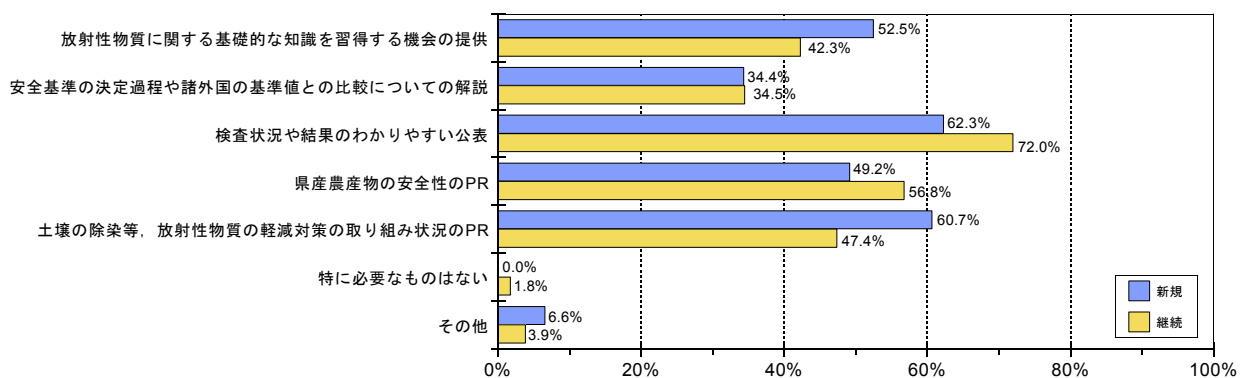


図 1 4 - 4 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（新規・継続の別、複数回答）

問 15 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みのほかに必要と思うものはありますか。(複数回答)

- 1 消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢
- 2 生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信
- 3 マスコミによる適正な報道
- 4 特に必要なものはない
- 5 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みのほかに必要と思うものは、「マスコミによる適正な報道」(74.4%)が最も多く、次いで「生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信」(71.8%)、「消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢」(38.1%)の順であった。

男女別、年代別、未成年家族の有無別、新規・継続の別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

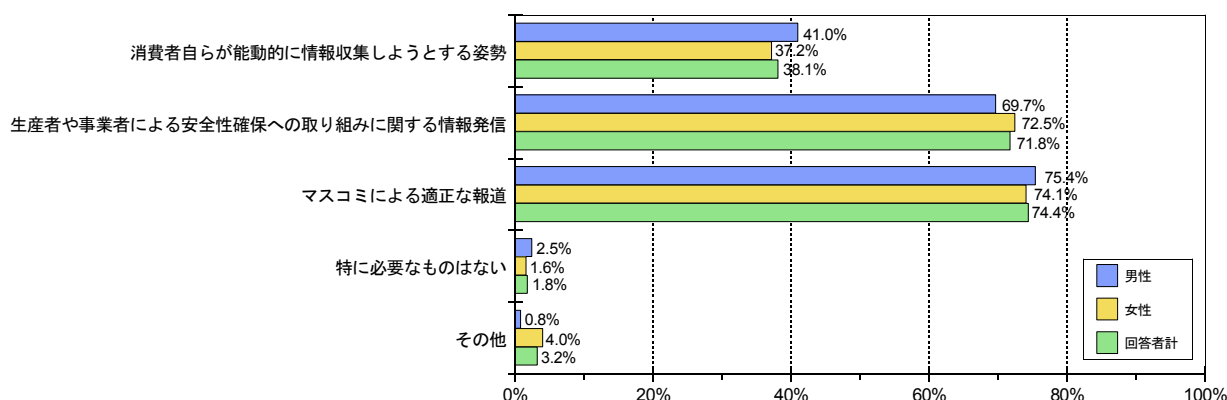
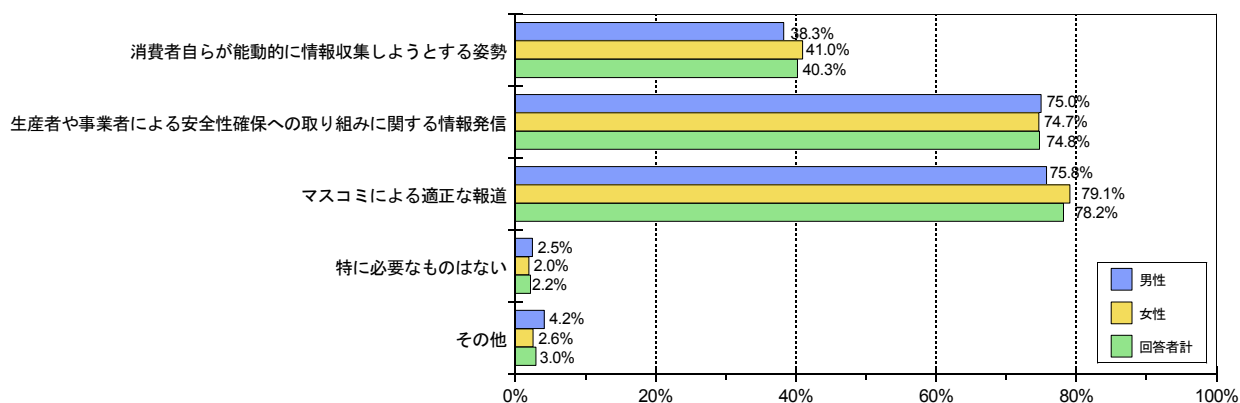


図 15-1 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの (男女別、複数回答)



参考 (H28) 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの (男女別、複数回答)



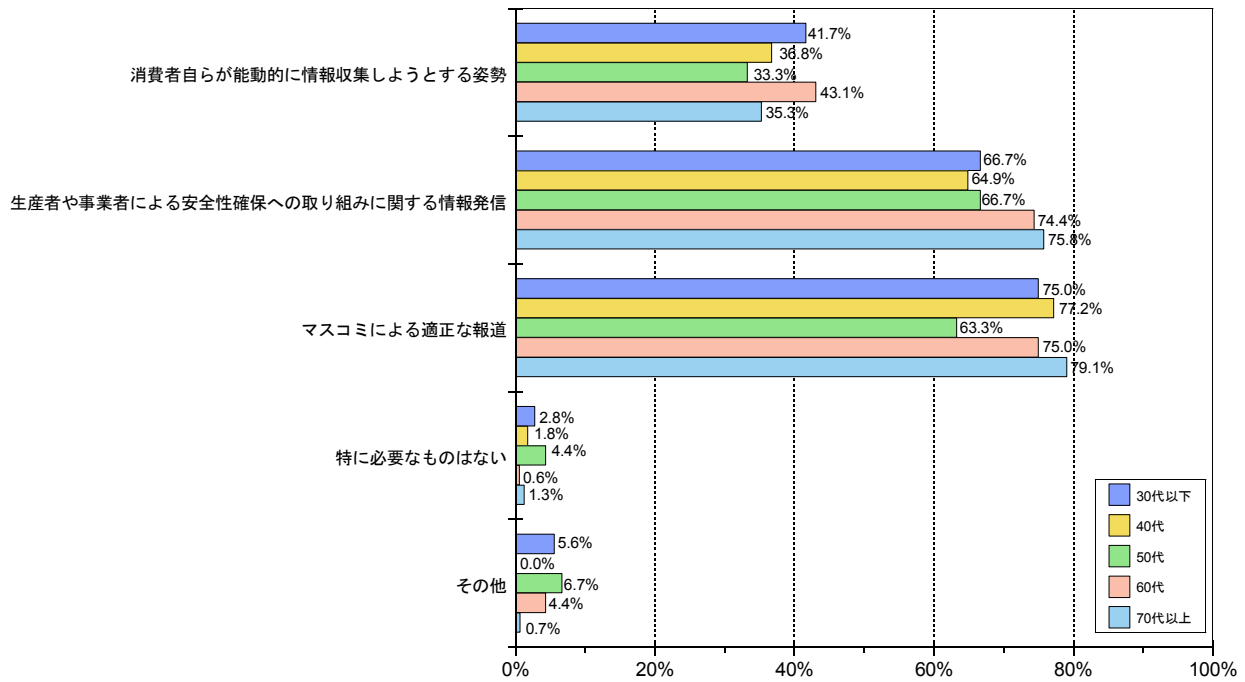


図 1 5 - 2 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの（年代別、複数回答）

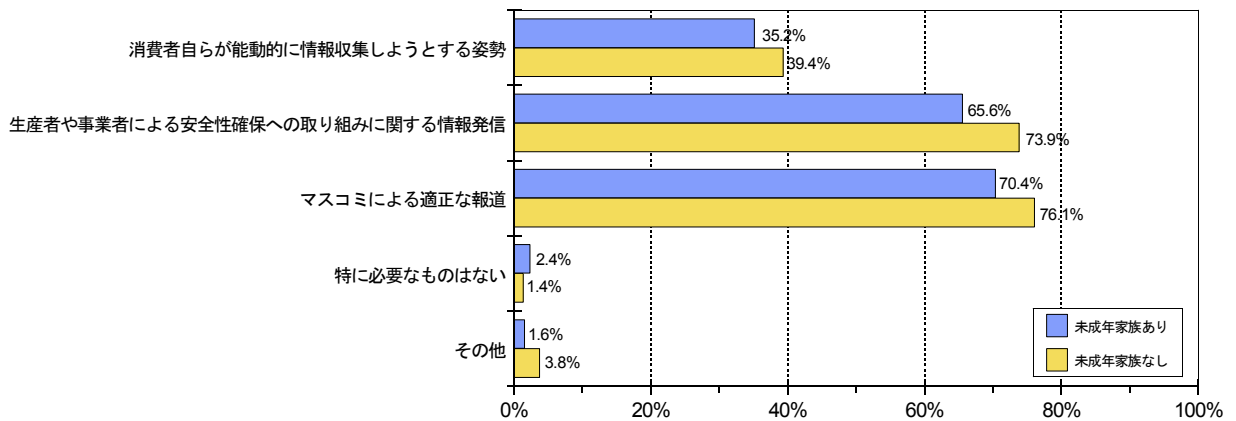


図 1 5 - 3 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの（未成年家族の有無別、複数回答）

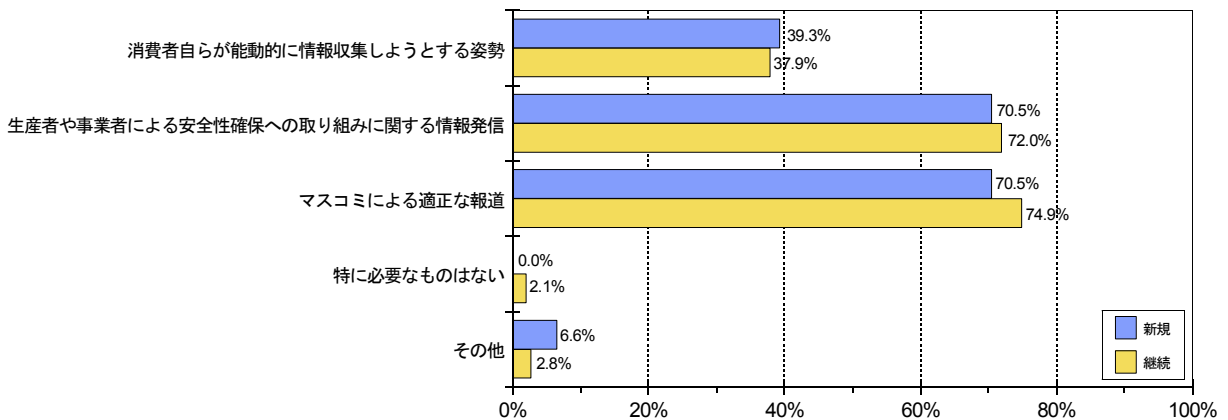


図 1 5 - 4 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの（新規・継続の別、複数回答）

## Ⅱ 食の安全安心について

### 問 16 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

1 不安を感じる	2 やや不安を感じる	3 どちらともいえない
4 あまり不安を感じない	5 全く不安を感じない	6 その他

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(12.0%)、「やや不安を感じる」(44.6%)を合わせて56.6%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ3.4ポイント低下している。

男女別では「全く不安を感じない」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

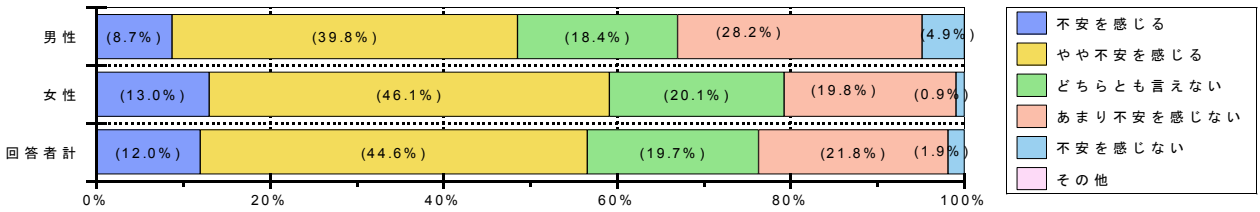
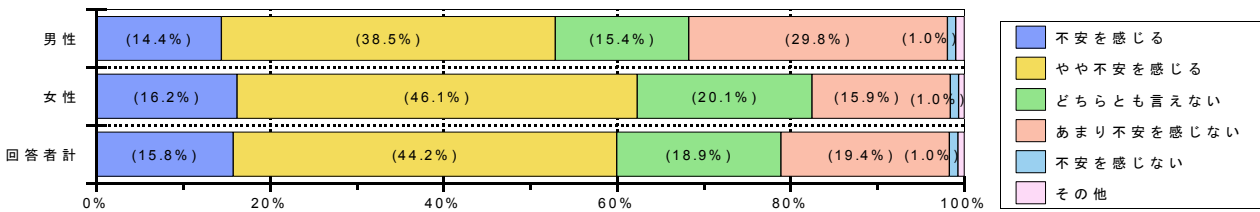


図 16-1 食の安全安心全般についての不安 (男女別)



参考 (H28) 食の安全安心全般についての不安 (男女別)

年代別では、有意差は見られない。

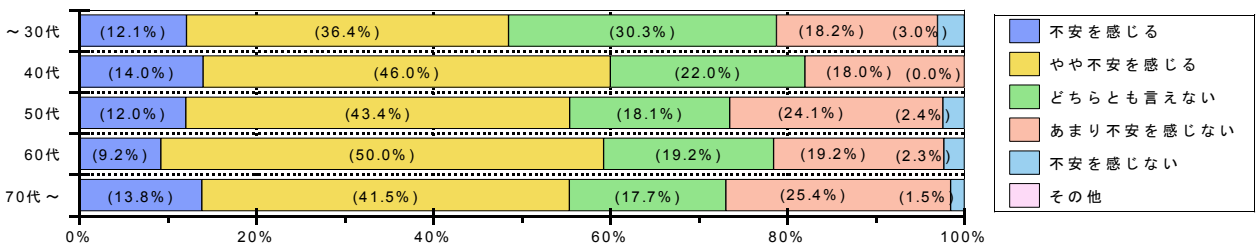


図 16-2 食の安全安心全般についての不安 (年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

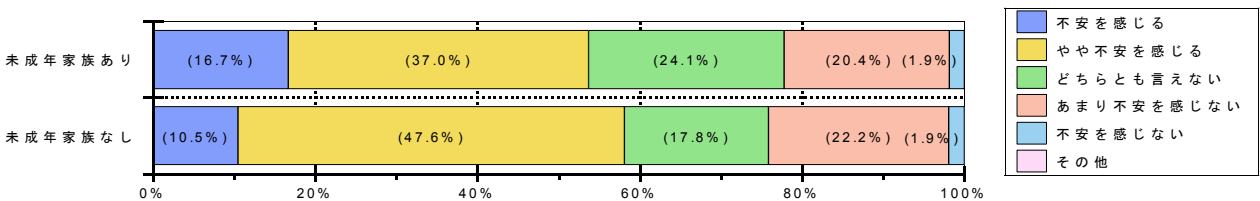


図 16-3 食の安全安心全般についての不安 (未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。

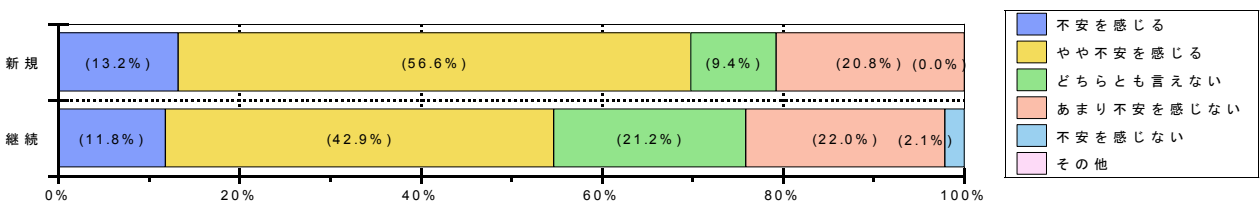


図 16-4 食の安全安心全般についての不安 (新規・継続の別)

問 17 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。  
(5段階評価)

1 食品添加物について	2 残留抗生物質について	3 環境汚染物質について
4 残留農薬について	5 異物混入について	6 アレルギー物質について
7 有害微生物について	8 家畜伝染病について	9 遺伝子組換え食品について
10 産地表示の信頼性	11 期限表示の信頼性	12 成分表示の信頼性
13 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	15 輸入食品の安全性	16 その他

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

不安を感じている項目としては、「残留農薬」(4.03点)が最も高く、次いで「環境汚染物質」・「輸入食品の安全性」(4.02点)、「食品添加物」(3.93点)、「残留抗生物質」(3.89点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「輸入食品の安全性」、「残留農薬」、「環境汚染物質」、「食品添加物」、「残留抗生物質」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。

平成24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」に対する不安(3.31点)については、昨年度(3.46点)よりわずかに低下した。

※ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

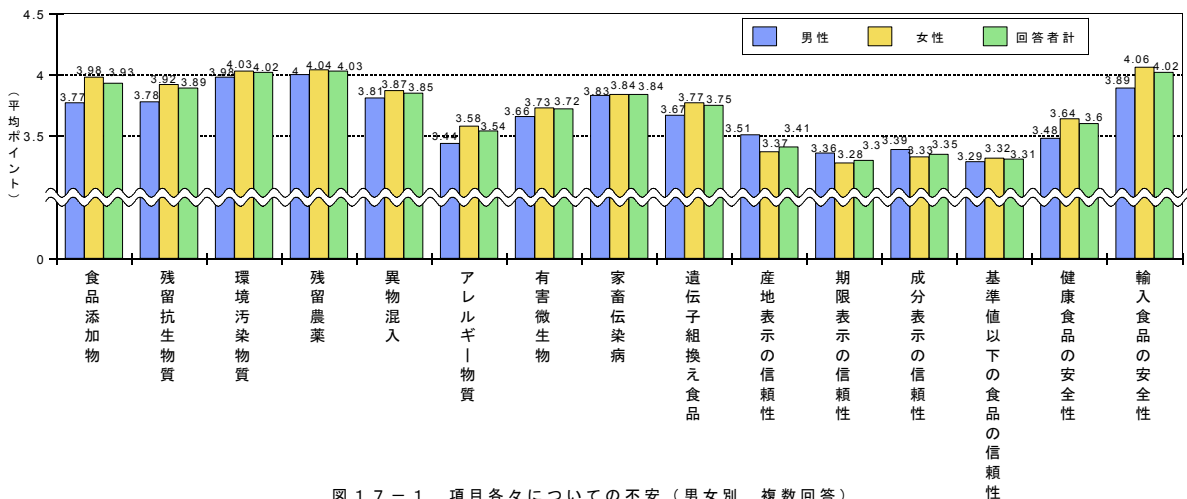
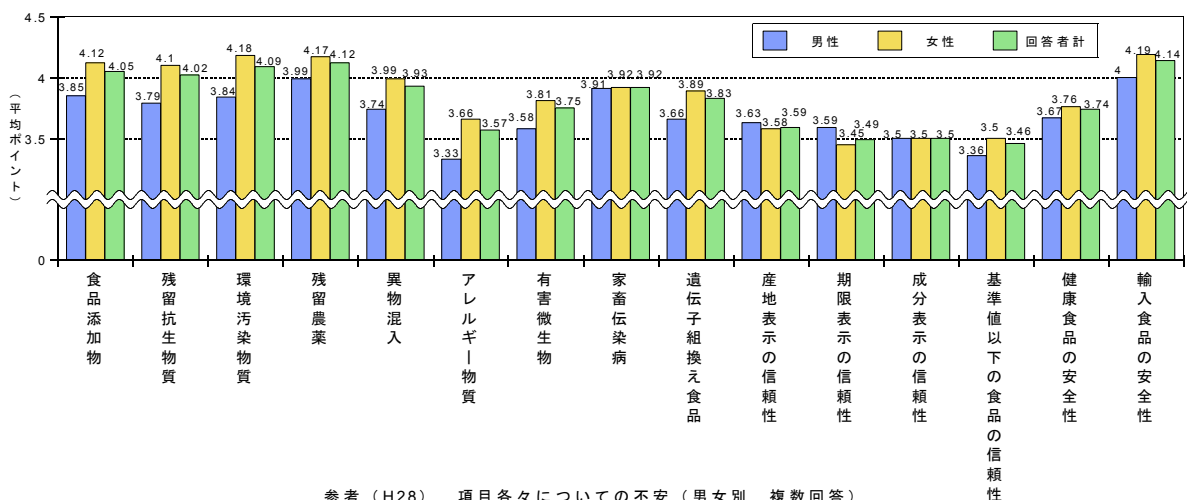


図 17-1 項目各々についての不安 (男女別、複数回答)



参考 (H28) 項目各々についての不安 (男女別、複数回答)

問 18 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった |
| 3 変わらない        | 4 やや不安を感じなくなった   |
| 5 不安を感じなくなった   | 6 以前から不安に思っていない  |
|                | 7 その他            |

「不安を感じるようになった」(4.8%)、「やや不安を感じるようになった」(9.5%)を合わせた14.3%が何らかの不安を感じており、昨年度に比べ1.5ポイント低下した。また、「やや不安を感じなくなった」(16.2%)は昨年度に比べ0.2ポイント低下し、「不安を感じなくなった」(4.4%)は昨年度に比べ1.5ポイント上昇した。少しずつであるが不安を感じる割合が低下している。

男女別、年代別、未成年家族の有無別、新規・継続の別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

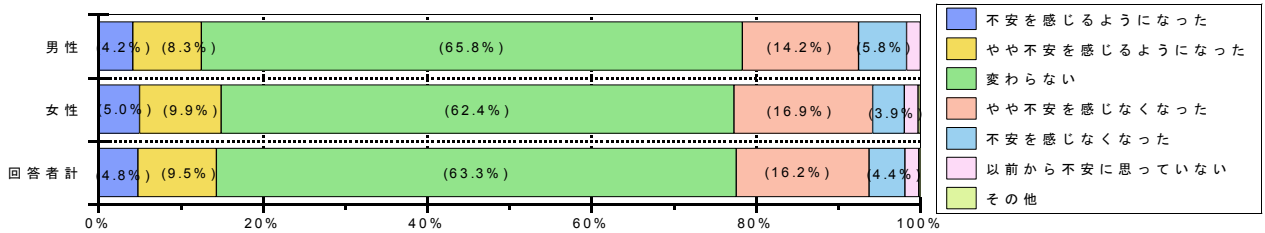
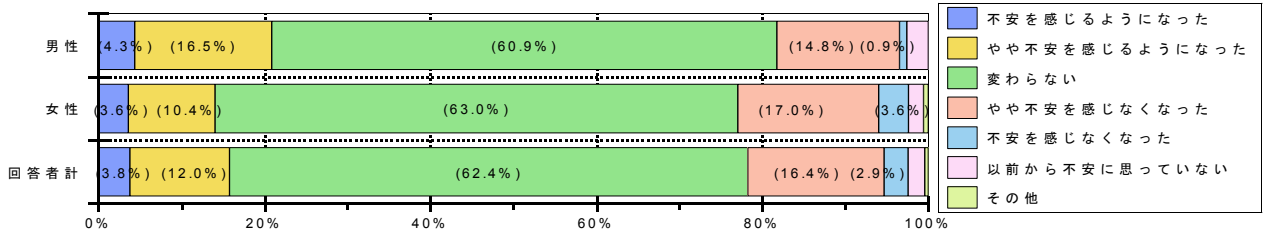


図 18-1 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)



参考 (H28) 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)

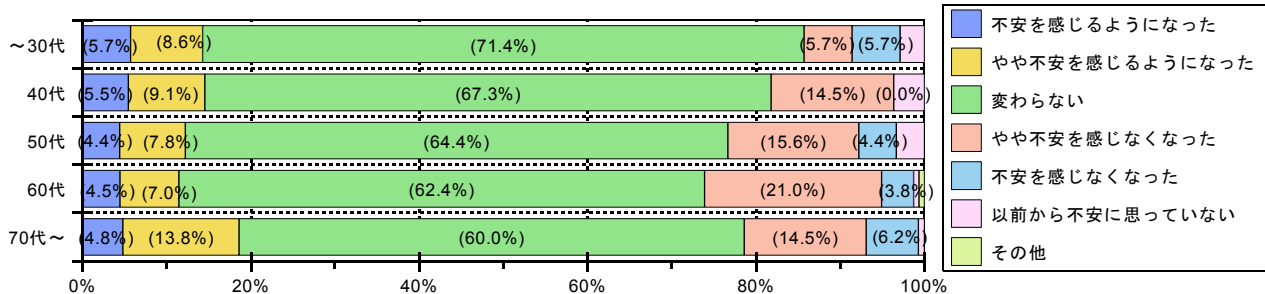


図 18-2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)

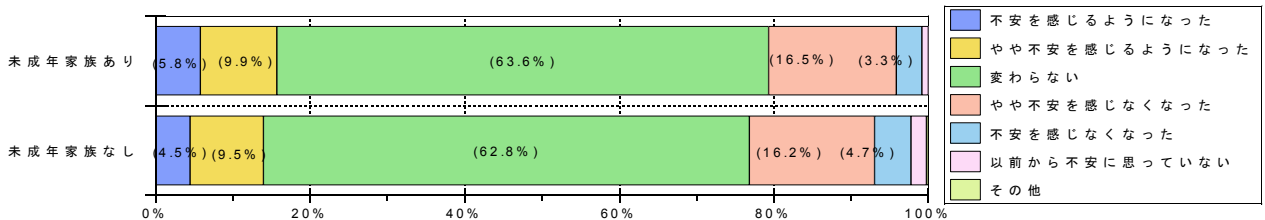


図 18-3 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (未成年家族の有無別)

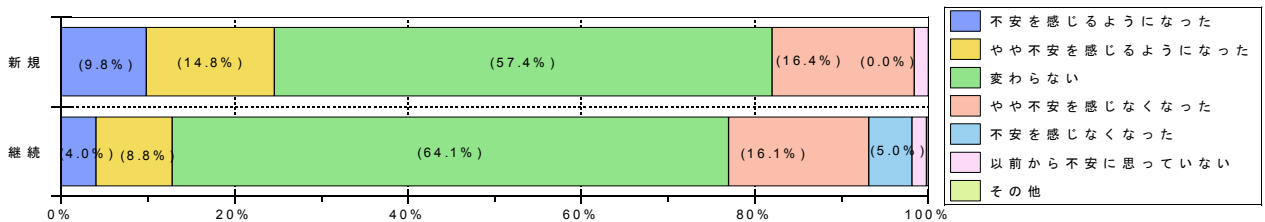


図 18-4 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (新規・継続の別)

問 19 食品の安全性を確保するための下記の取り組みについて、あなたはどのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、その取り組みに対して現在十分に行われていると思いますか（満足度）。（5段階評価）

1 食品関係法令の改正（罰則の強化等）	2 食品の安全性を証明する第三者機関認証
3 食品製造企業の自主管理体制の強化	4 食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等）
5 輸入食品の検査体制の強化	6 県民総参加運動の推進
7 消費者への支援強化（機会の提供等）	8 食に関する正しい情報の提供
9 食品表示の指導・監視体制の強化	10 違反、事件、事故の速やかな情報公開
11 その他	

重要度	1 大変重要だと思う 4 あまり重要だと思わない	2 やや重要だと思う 5 全く重要だと思わない	3 どちらともいえない
満足度	1 十分行われている 4 あまり十分でない	2 大体行われている 5 全く不十分である	3 どちらともいえない

食品の安全性を確保するための各取り組みについて、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が、十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取り組みを優先的に取り組むべきと考え、  
「輸入食品の検査体制の強化」、「違反、事件、事故の速やかな情報公開」、「食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等）」、「食品製造企業の自主管理体制の強化」の順であり、昨年度と同様の傾向である。また、この4項目のうち重要度と満足度のポイントの差は「食品の衛生・監視指導の強化」は昨年度と同じだが、その他の3項目は昨年度より大きくなっている。

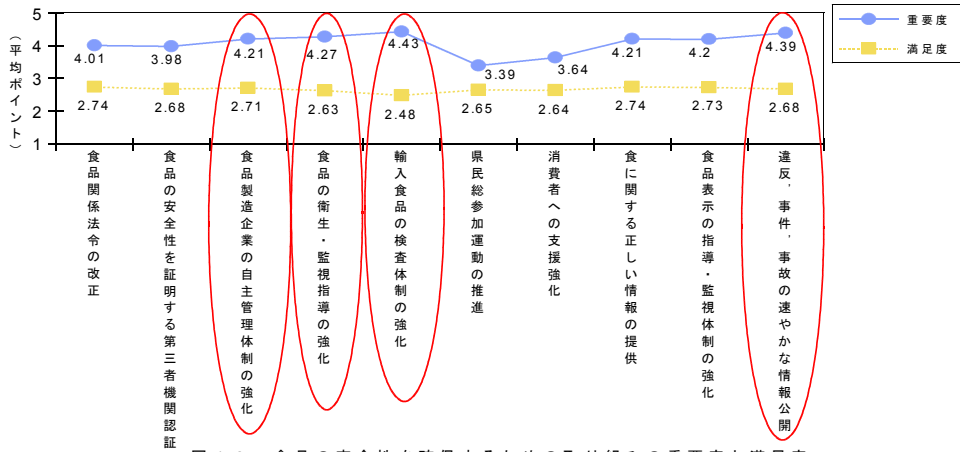
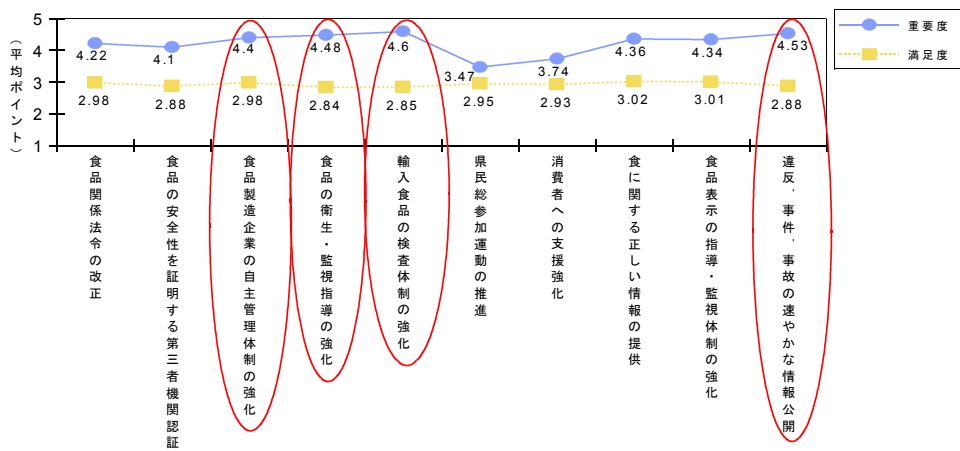


図 19 食品の安全性を確保するための取り組みの重要度と満足度



参考 (H28) 食品の安全性を確保するための取り組みの重要度と満足度

※ポイントは、「大変重要だと思う」「十分行われている」を5点、「やや重要だと思う」「大体行われている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要だと思わない」「あまり十分でない」を2点、「全く重要と思わない」「全く不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問 2 0 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。  
(優先度の高い順に3つ)

- |                       |              |            |
|-----------------------|--------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい        | 2 高価なものを摂りたい | 3 健康に配慮したい |
| 4 安全性に配慮したい           | 5 食費を節約したい   |            |
| 6 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい |              |            |
| 7 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 8 その他        |            |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(424人)、「健康に配慮したい」(416人)と回答する人が圧倒的に多く、次いで「美味しいものを追求したい」(186人)、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(179人)、「食費を節約したい」(127人)の順であった。

昨年度の結果と同様の傾向となっている。

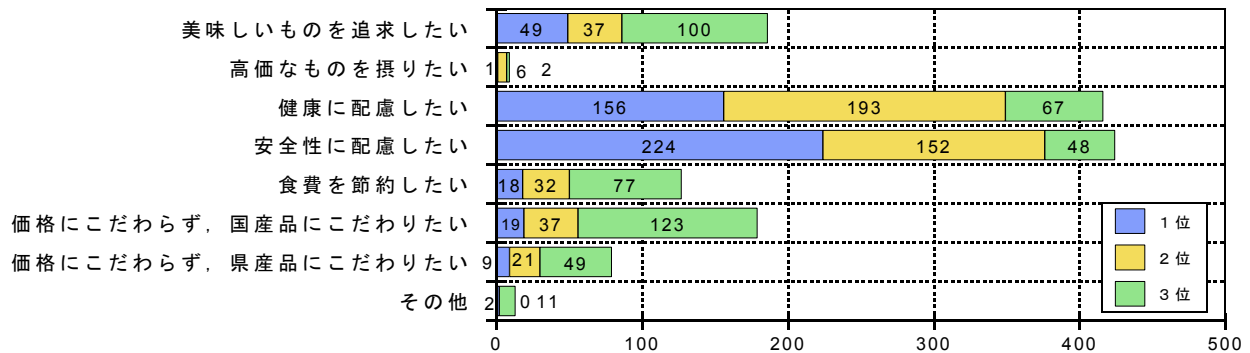
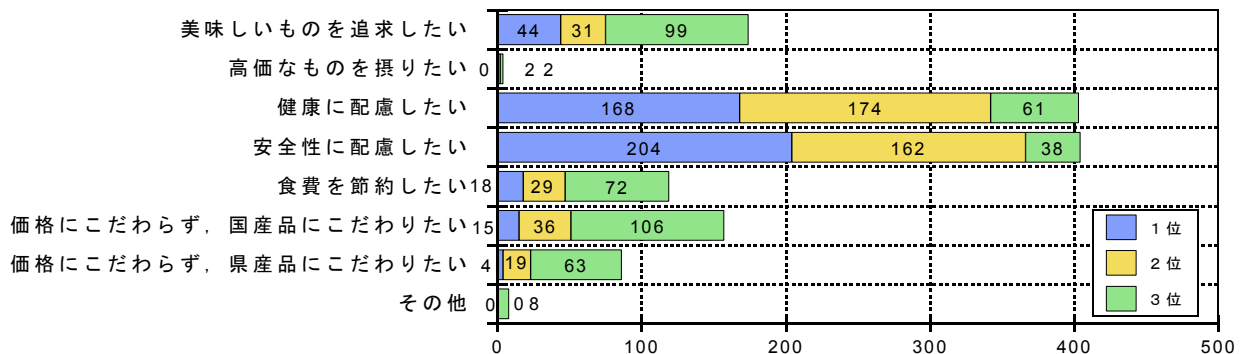


図 2 0 - 1 食に対する価値観 (単純合計)



参考 (H28) 食に対する価値観 (単純合計)

男女別では「美味しいものを追求したい」、「高価なものを摂りたい」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

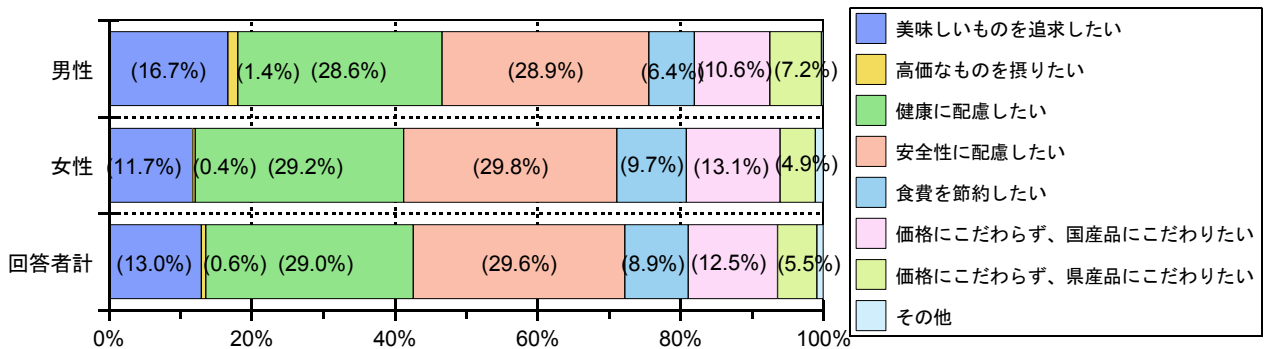


図 2 0 - 2 食に対する価値観 (単純合計, 男女別)

年代別では有意差が見られ、「美味しいものを追求したい」の項目では、30代以下の回答割合が高い。「高価なものを摂りたい」の項目では、70代以上の回答割合が高い。「食費を節約したい」の項目では、40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目では、70代以上の回答割合が高い。

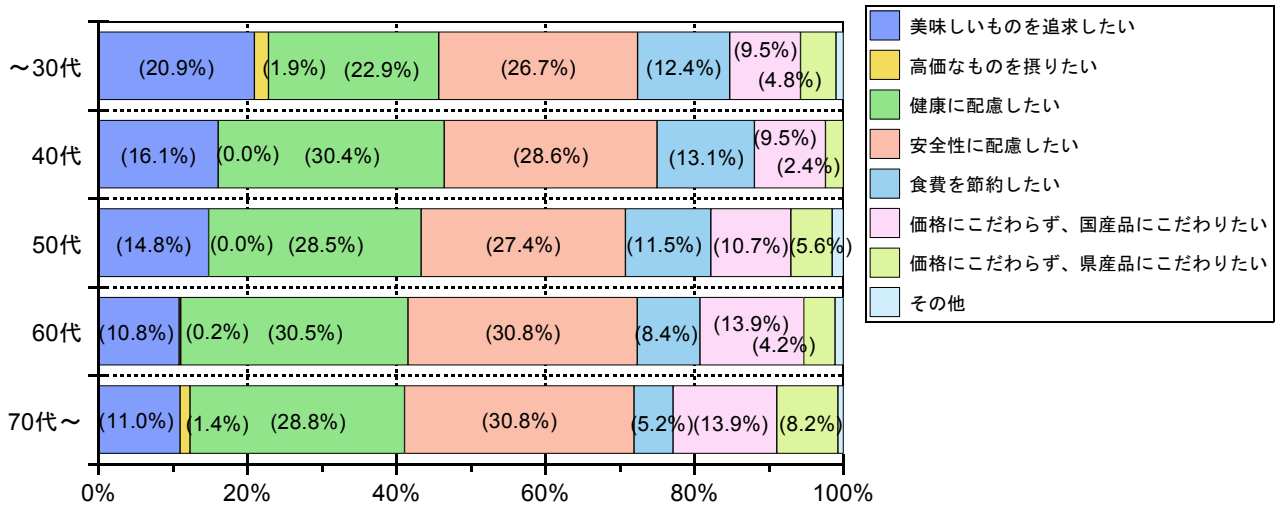


図20-3 食に対する価値観（単純合計，年代別）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

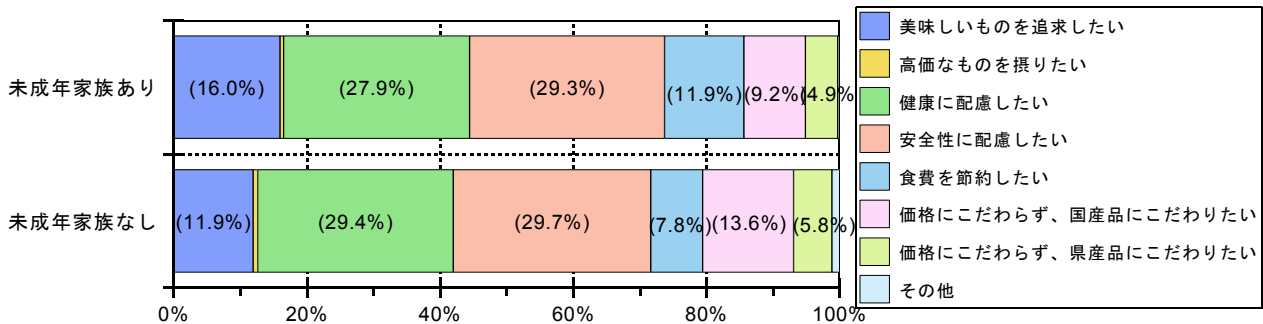


図20-4 食に対する価値観（単純合計，未成年家族の有無別）

新規・継続の別では、有意差は見られない。

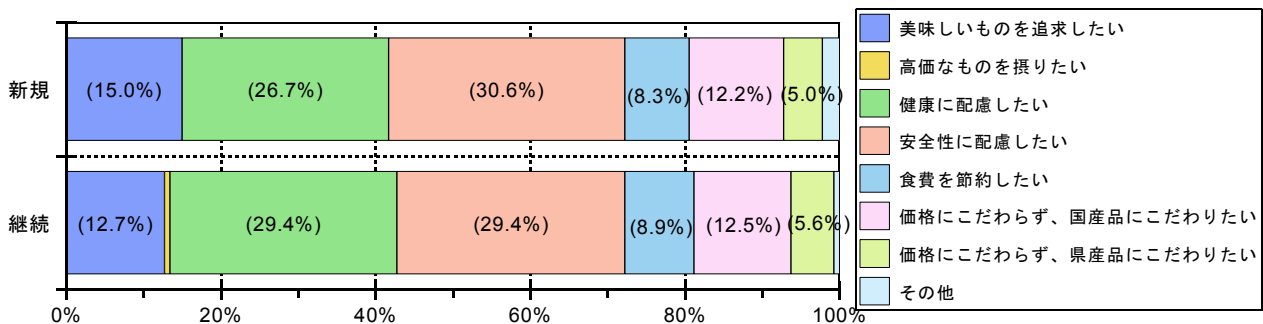


図20-5 食に対する価値観（単純合計，新規・継続の別）

問 2 1 さらなる食の安全安心に向けた取り組みを実践するために、県が取り組むべきこととして望むのはどれですか。(複数回答)

- 1 生産者の取り組みへの支援
- 2 安全な農林水産物生産環境づくり支援
- 3 食関連事業者に対する支援
- 4 生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 5 食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 6 食品表示の適正化の推進
- 7 情報の収集、分析及び公開
- 8 消費者、生産者及び食関連事業者との相互理解の促進
- 9 県民総参加運動の展開
- 10 県民意見の施策への反映
- 11 (県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化
- 12 審議会(「みやぎ食の安全安心推進会議」)の機能強化
- 13 その他

食の安全安心に向けて、県が取り組むべきこととして望まれているのは、回答割合が高い順に「生産者の取り組みへの支援」(65.3%)、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」(59.9%)、「安全な農林水産物生産環境づくり支援」(55.4%)、「食品表示の適正化の推進」(55.0%)、「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」(52.6%)となった。昨年度同様、生産者・生産環境づくりへの支援や監視・指導の徹底を求める意向が強い。

男女別では「県民総参加運動の展開」及び「審議会(「みやぎ食の安全安心推進会議」)の機能強化」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

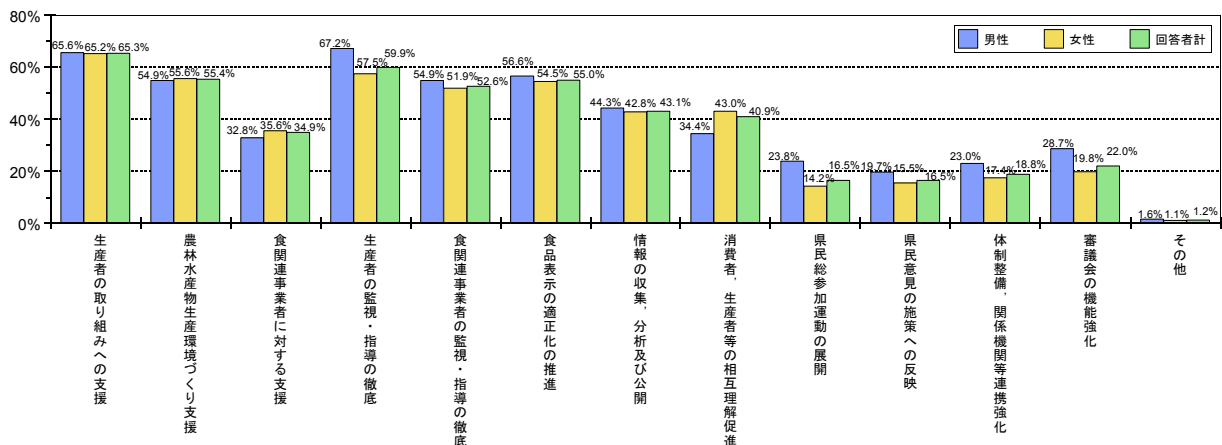
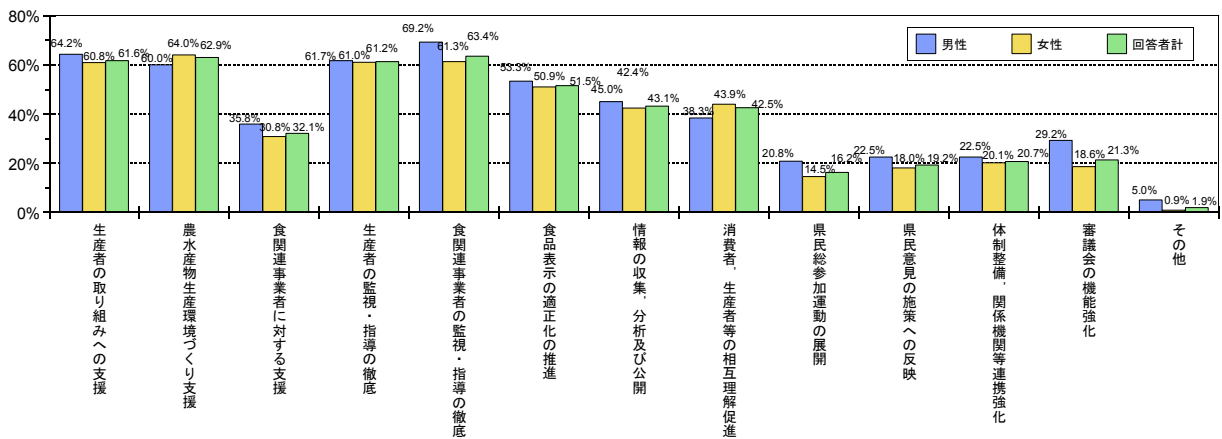


図 2 1 - 1 食の安全安心に向けて取り組むべきこと (男女別、複数回答)



参考 (H28) 食の安全安心に向けて取り組むべきこと (男女別、複数回答)



年代別では有意差が見られ、「安全な農林水産物生産環境づくり支援」の項目では、60代の回答割合が高く、40代以下の回答割合が低い。「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」の項目では、60代の回答割合が高く、30代以下の回答割合が低い。「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」の項目では、30代以下の回答割合が低い。「食品表示の適正化の推進」の項目では、50代の回答割合が低い。「(県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化」の項目では、60代の回答割合が高く、30代以下及び50代の回答割合が低い。

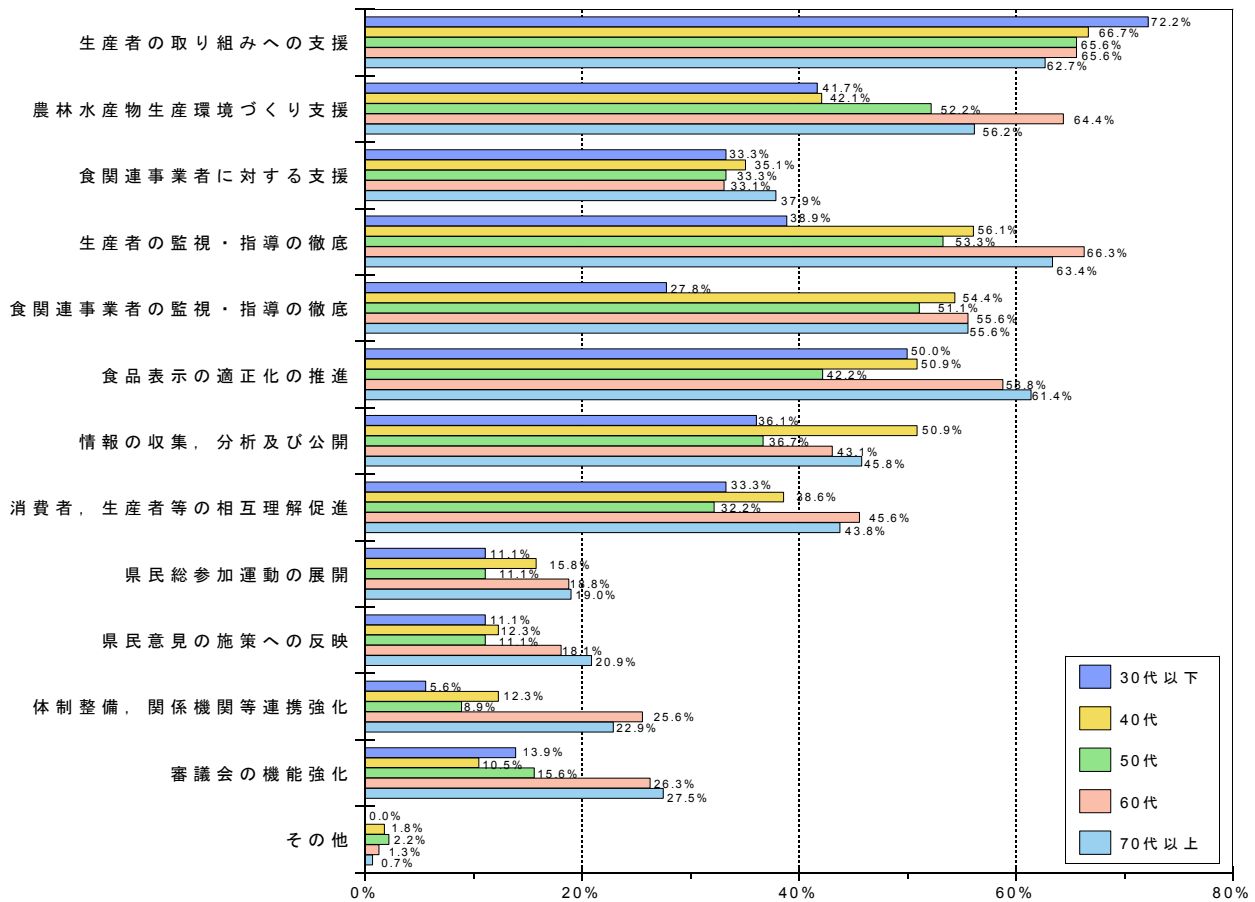


図 2 1 - 2 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「生産者の取り組みへの支援」の項目では、「未成年家族あり」の回答割合が高い。「消費者、生産者及び食関連事業者との相互理解の促進」、「県民意見の施策への反映」、「(県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化」の項目では、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

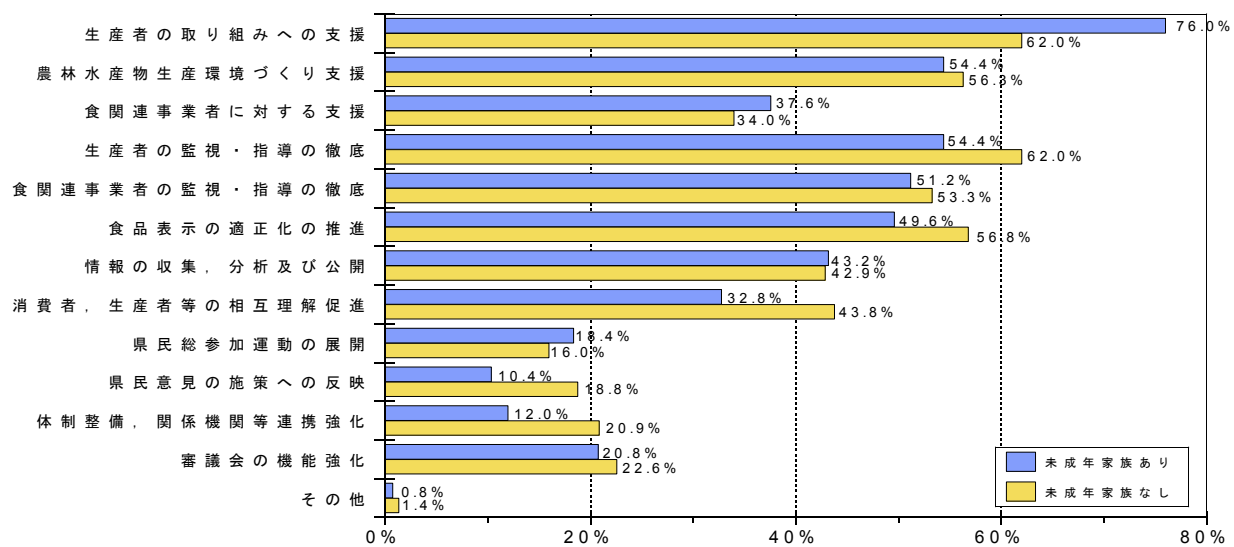


図 2 1 - 3 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では「情報の収集、分析及び公開」、「県民意見の施策への反映」の項目で有意差が見られ、継続モニターの回答割合が高い。

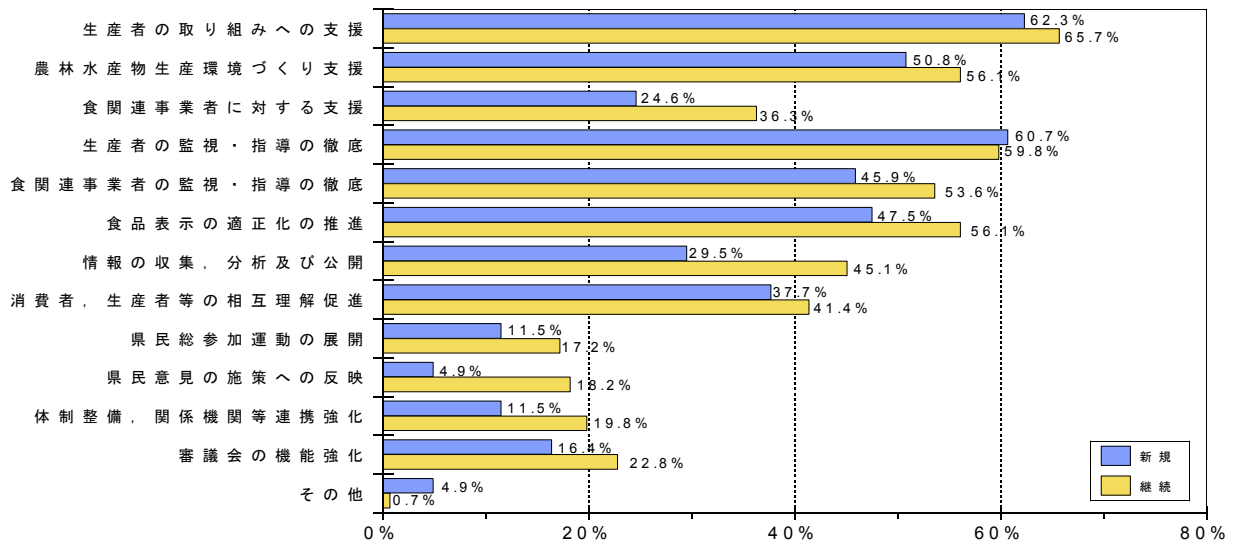


図 2 1 - 4 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（新規・継続の別，複数回答）

問 2 2 あなたは、どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。(複数回答)

1 県政だより	2 県のホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 その他	

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(74.8%)が最も多く、次いで「新聞」(68.1%)、「テレビ・ラジオ」(55.4%)の順となっており、昨年度と同様の傾向である。

男女別では「県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

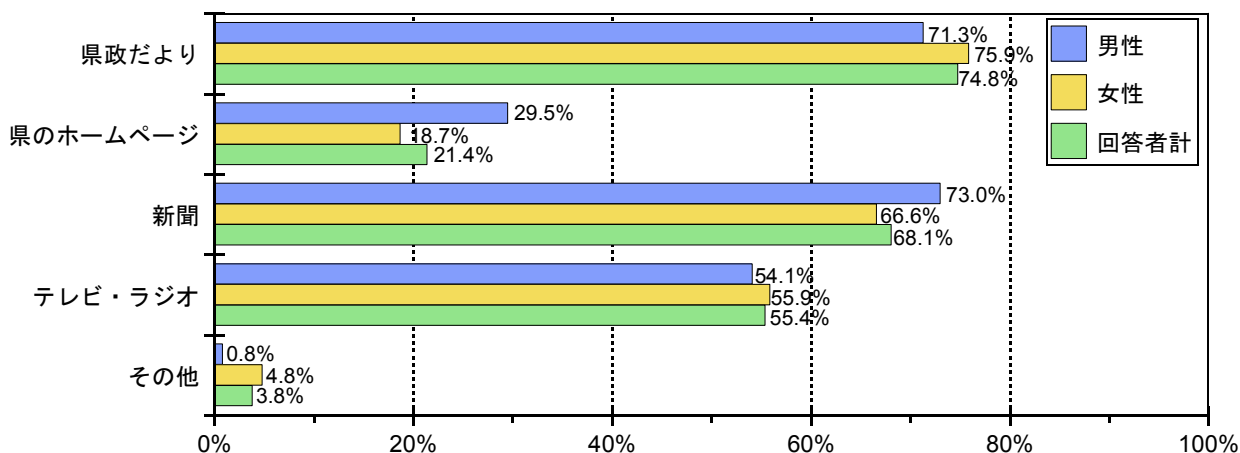
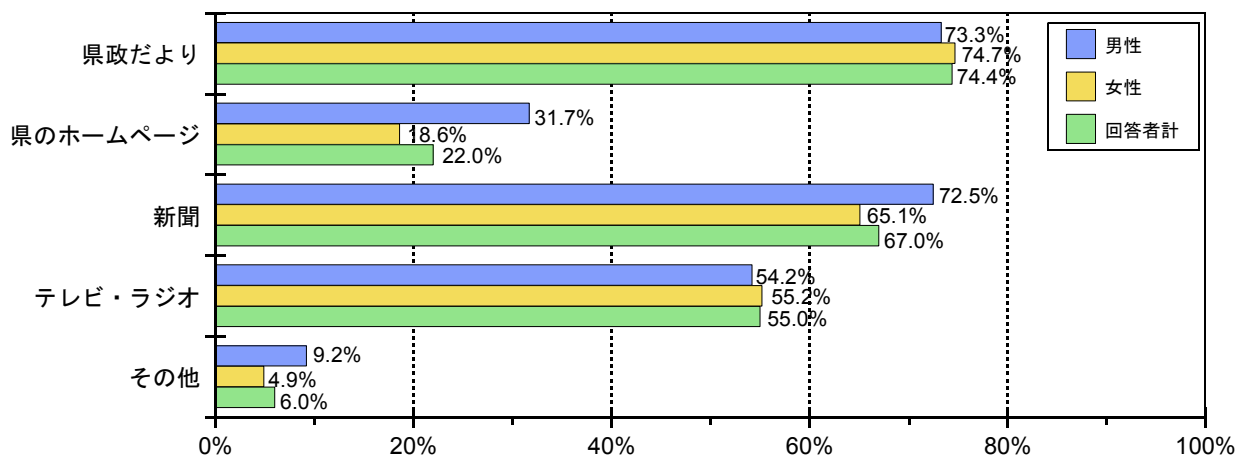


図 2 2 - 1 県からの情報の確認方法 (男女別, 複数回答)



参考 (H28) 県からの情報の確認方法 (男女別, 複数回答)

年代別では有意差が見られ、「新聞」の項目では、70代以上の回答割合が高く、30代以下及び40代の回答割合が低い。「テレビ・ラジオ」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。

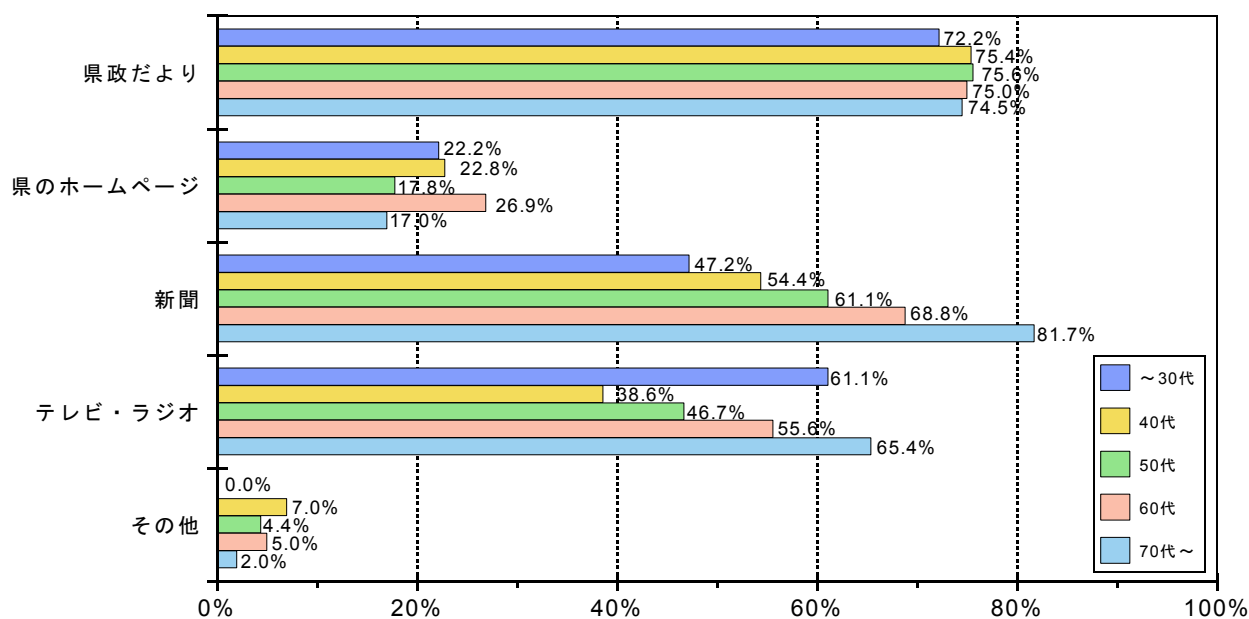


図 2 2 - 2 県からの情報の確認方法（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

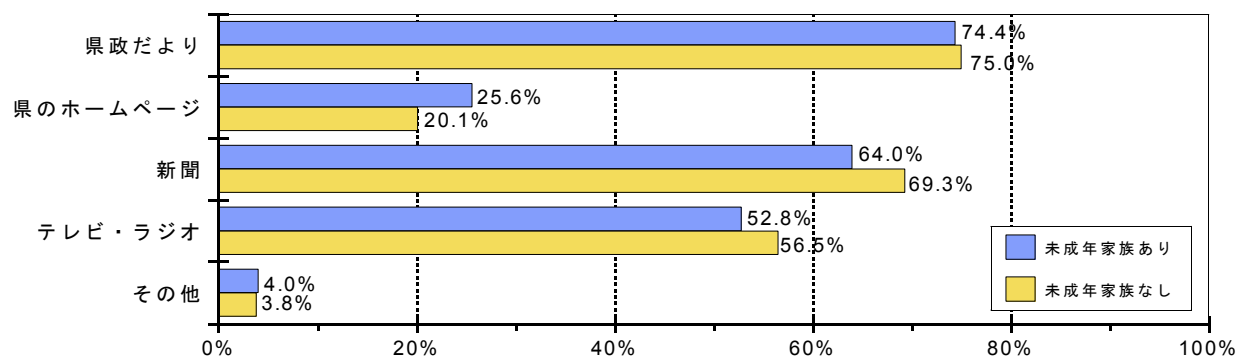


図 2 2 - 3 県からの情報の確認方法（未成年家族の有無別，複数回答）

新規・継続の別では「新聞」の項目で有意差が見られ、継続モニターの高回答割合が高い。

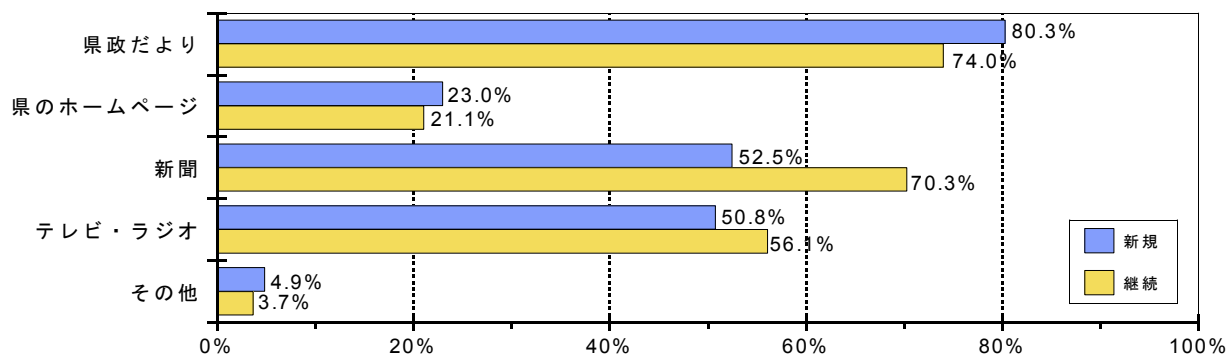


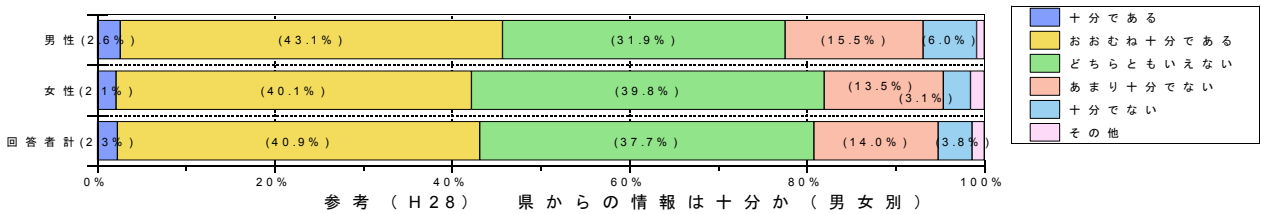
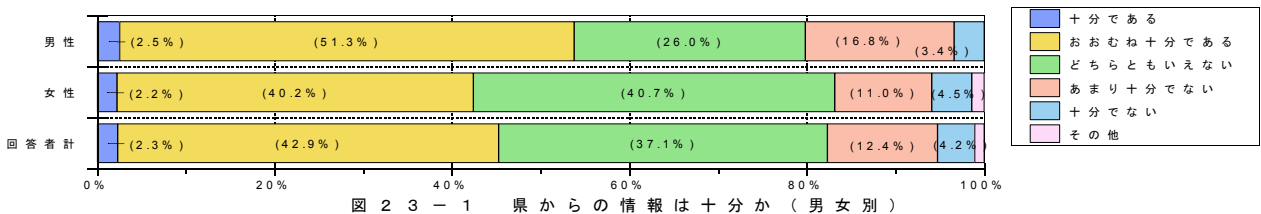
図 2 2 - 4 県からの情報の確認方法（新規・継続の別，複数回答）

問 2 3 県からの食の安全安心に関する情報提供について、十分だと感じていますか。  
(単一回答)

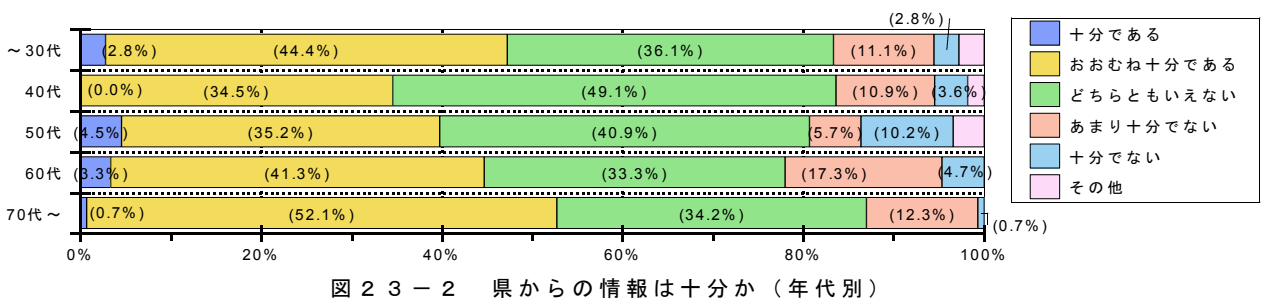
評価	1 十分である	2 おおむね十分である	3 どちらともいえない
	4 あまり十分でない	5 十分でない	6 その他

県からの情報提供については、「十分である」(2.3%)と「おおむね十分である」(42.9%)を合わせて45.2%となり、昨年度に比べ2.0ポイント上昇した。

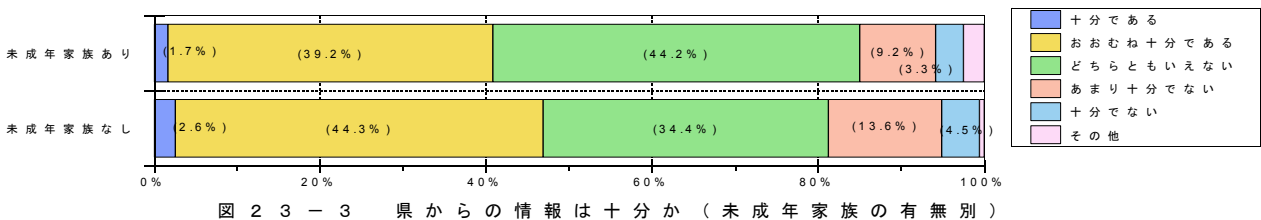
男女別では、有意差は見られない。



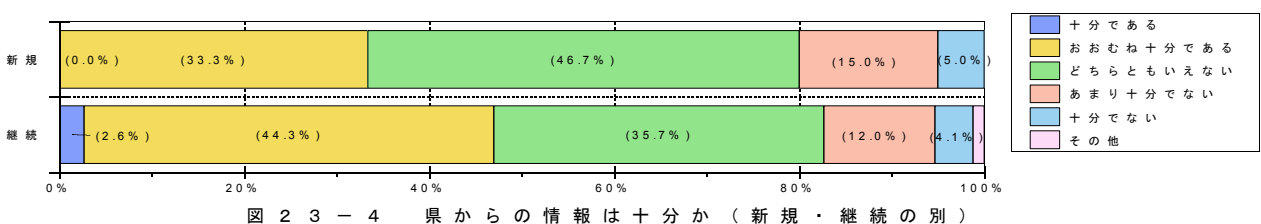
年代別では有意差が見られ、「おおむね十分である」の項目では、70代以上の回答割合が高い。「どちらとも言えない」の項目では、40代の回答割合が高い。「あまり十分でない」の項目では、60代の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。「十分でない」の項目では、50代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



## 問24 問23の回答理由はなんですか。自由にお書きください。

計252件の記述回答があり、問23で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問23で「1 十分である」「2 おおむね十分である」と回答した者の主な回答は、「各種媒体で情報収集できるから」、「情報に注目させる工夫をしてほしい」であった。

問23で「3 わからない」と回答した者の主な回答は、「情報をあまり目にせず情報収集しづらいから」、「ホームページではなくテレビ、新聞等で定期的に情報提供してほしい」であった。

問23で「4 あまり十分でない」、「5 十分でない」と回答した者の主な回答は、「情報をあまり見聞きせず、自ら情報収集しなければならないから」、「多くの人の目にとまる分かりやすい方法で、定期的に情報提供してほしい。情報提供の方法も伝えてほしい」であった。

問23 回答	理 由	要 望
1	・今の状況で十分だと感じるから。(3)	・研修会等でもっと情報提供してほしい。(1)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種媒体で情報収集できるから。(100)</li> <li>県政だより(25) 新聞(24) テレビ(23)</li> <li>モニター活動・モニターだより(10)</li> <li>ホームページ(8) ラジオ(6)</li> <li>研修会・行事(3)</li> <li>みやぎ食の安全安心推進会議(1)</li> <li>・様々な機会に情報提供されており、情報を様々な方法で確認できるから。(27)</li> <li>・情報不足で困ったことがないから。(10)</li> <li>・県の情報を信頼しているから。(7)</li> <li>・情報が分かりやすいから。(4)</li> <li>・情報提供されたことが分からないから。(1)</li> <li>・ホームページの情報を確認できなかつたり、情報を理解できないことがあるから。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に注目させる工夫をしてほしい。(2)</li> <li>・食品表示の見方について情報がほしい。(2)</li> <li>・正確な情報を発してほしい。(2)</li> <li>・県政だより等はじっくり読めないので、重要情報はテレビ等で広く伝えてほしい。(1)</li> <li>・県政だより、新聞の紙媒体で積極的に情報提供してほしい。(1)</li> <li>・分かりやすく整理して情報提供してほしい。</li> <li>・遺伝子組換え食品や添加物、残留抗生物質等の情報がほしい。(1)</li> <li>・法令等の改正や行政上の手続き、国や県の政策について情報提供してほしい(1)。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をあまり目にせず情報収集しづらいから。(23)</li> <li>・自ら情報収集しないと情報を得られないから。(20)</li> <li>・情報が分かりづらいから。(7)</li> <li>・情報提供の手段が少ない(分からない)から。(7)</li> <li>・ホームページの情報を確認できないから。(5)</li> <li>・情報を信用してよいか分からないから(5)</li> <li>・県はもっと努力する必要があると思う(3)</li> <li>・よくわからない(7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページではなくテレビ、新聞等で定期的に情報提供してほしい。(9)</li> <li>・関心がない消費者の耳や目に自然と入るような、消費者の関心を引きつけられるような情報提供をしてほしい。(7)</li> <li>・迅速かつ分かりやすく情報提供してほしい。(6)</li> <li>・様々な方法で多くの情報を提供してほしい。また、簡単に情報を得られるような方法で情報提供してほしい。(6)</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をあまり見かけず、耳にしないため、自ら情報収集しなければならないから。(11)</li> <li>・情報が少なく、分かりづらいから。(10)</li> <li>・情報媒体が限られているから。(4)</li> <li>・内容が薄く、印象に残らないから。(4)</li> <li>・情報提供の方法が分からないから。(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人の目にとまる分かりやすい方法で、定期的に情報提供してほしい。情報提供の方法も伝えてほしい(15)</li> <li>・もっと詳しく情報提供してほしい。(6)</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら情報を収集をしなければ、情報を得ることができないから。(4)</li> <li>・内容がよく分からないから。(2)</li> <li>・量及び提供する媒体が足りないから。(2)</li> <li>・情報提供の方法が分からないから。(1)</li> <li>・情報がありすぎてよく分からないから。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく情報提供してほしい。(1)</li> <li>・情報の質や発信方法、提供する対象(子供か大人か等)を考慮してほしい。(1)</li> <li>・事業者、生産者が安全安心の確保に取り組んでいる様子を伝えて欲しい。(1)</li> </ul>
6	・自ら情報収集しないので分からない。(2)	・県政だよりを毎月発行してほしい。(1)

※ 括弧内は意見の数。

問 2 5 県からの情報提供について、どのような内容の情報を知りたいですか。  
(複数回答)

- 1 法令等の改正や行政上の手続き
- 2 食中毒や自主回収等
- 3 食品表示の見方
- 4 国や県が行っている対策や事業
- 5 消費者モニターの活動（セミナーの内容等）
- 6 食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介
- 7 その他

県から知りたい情報は、回答割合が高い順に「食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介」(63.1%)、「食中毒や自主回収等」(55.6%)、「国や県が行っている対策や事業」(49.8%)、「食品表示の見方」(37.9%)となり、昨年度と同様の傾向である。

男女別では、有意差は見られない。

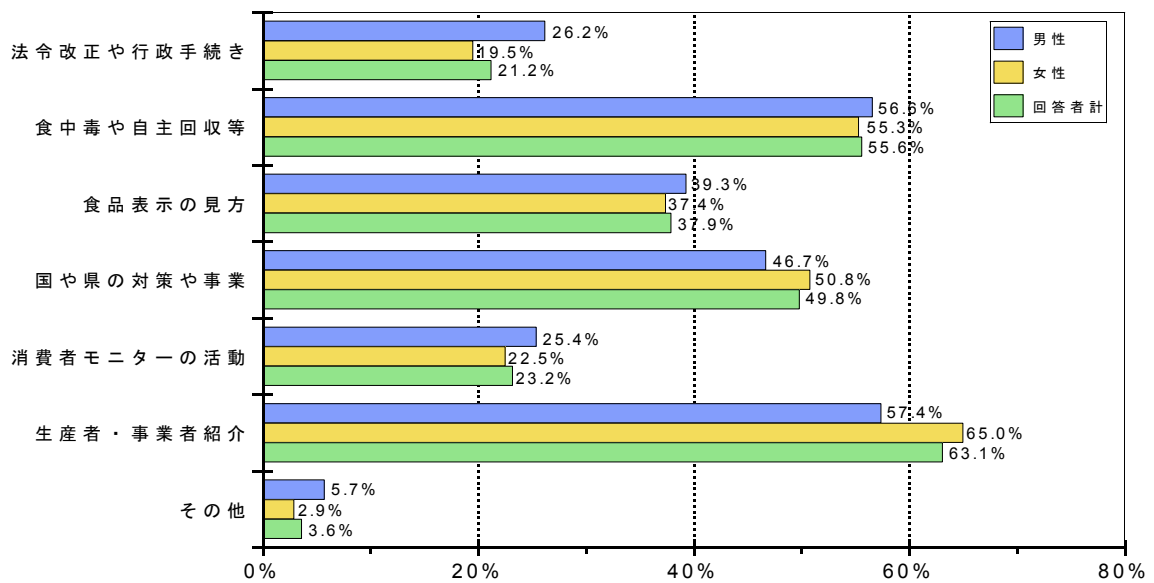
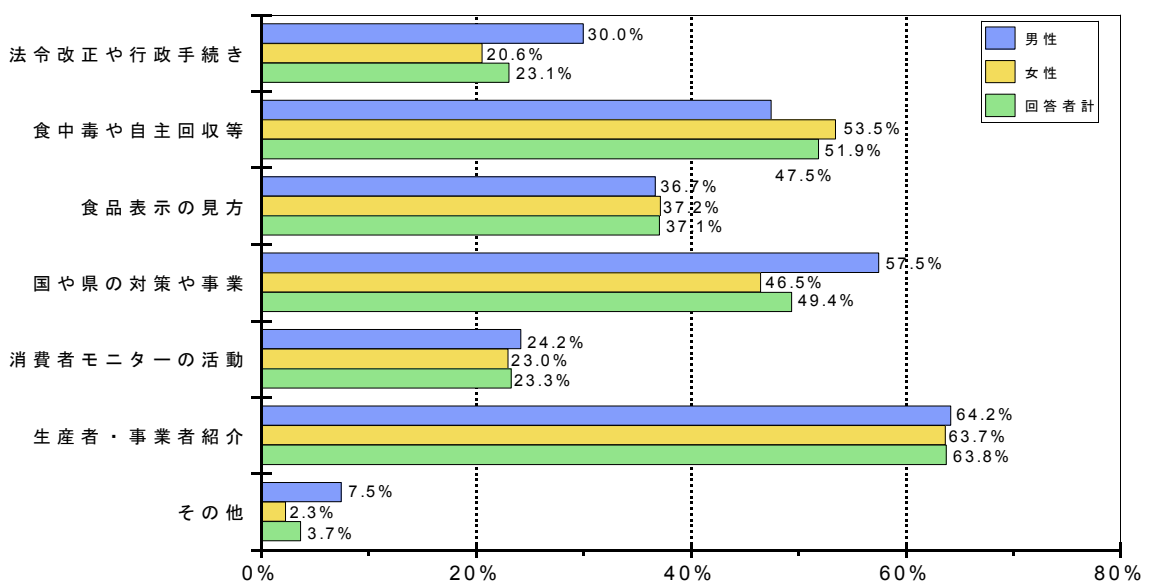


図 2 4 - 1 県からの情報で知りたい内容（男女別，複数回答）



参考（H28） 県からの情報で知りたい内容（男女別，複数回答）

年代別では、有意差は見られない。

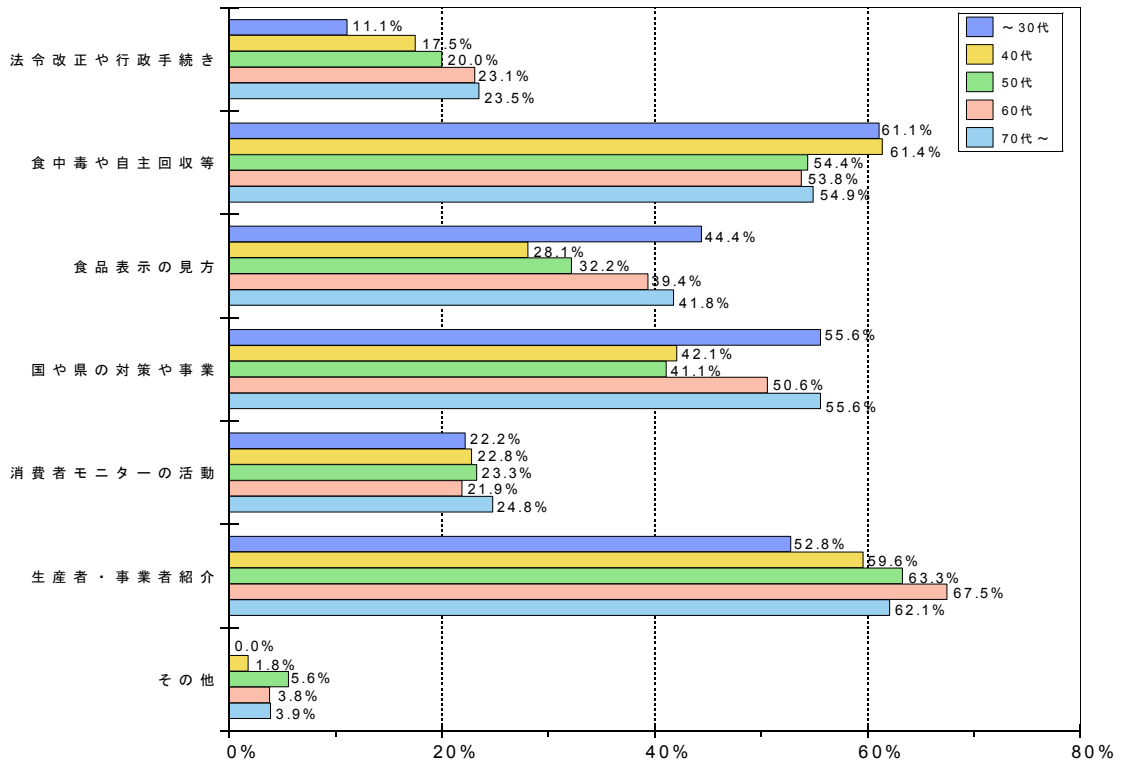


図 2 5 - 2 県からの情報で知りたい内容（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では「消費者モニターの活動（セミナーの内容等）」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

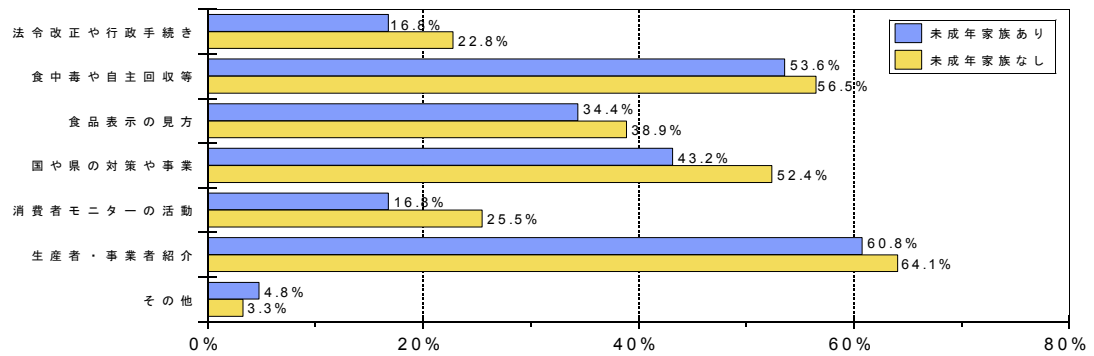


図 2 5 - 3 県からの情報で知りたい内容（未成年家族の有無別，複数回答）

新規，継続の別では、有意差は見られない。

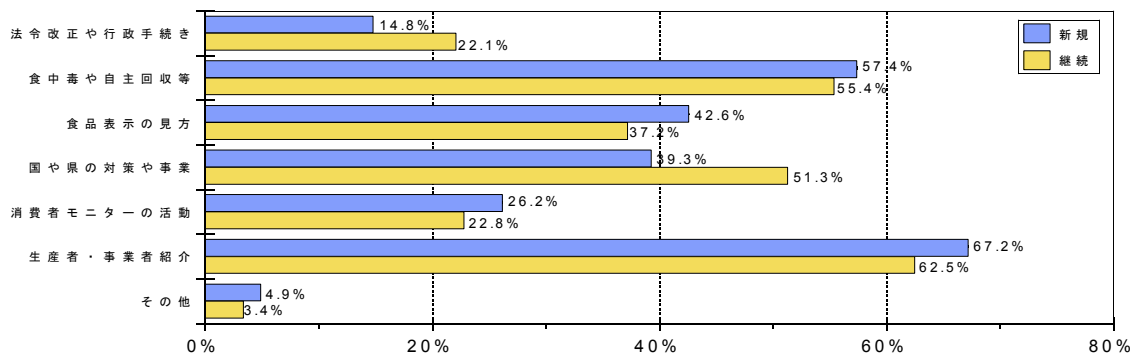


図 2 5 - 4 県からの情報で知りたい内容（新規・継続の別，複数回答）



## 問 2 6 食の安全安心全般, 国や県の施策についての意見, 提言

計200件の記述回答があり, その内容としては, 「情報提供の場を増やす」, 「迅速かつ正確で分かりやすい情報提供」等, 情報提供・知識の普及啓発に関する意見が最も多かった。また, 監視・指導・支援に関する意見や放射性物質に関する意見も多かった。(個別の内容は省略)